

シクリスムエコーNo.106 2004年3月号

アンチ・ドーピング検査に関する情報	2	平成15年度全国自転車競技指導者研修会	19
2003 ロード ランキング	3	2004年アジア自転車競技選手権大会	19
競技運営委員会からのお知らせ	8	インフォメーション コーナー	19
競技規則集2004年版改訂事項一覧表	9	2004年度レース・カレンダーの変更	20
JCFニュース	17	広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内	20
UCIニュース	17	2004年JCF競技規則集 完成!	20
JCFトラックナショナルチーム強化合宿	18	連盟の動き(3月上旬~3月中旬)/4月の主な予定	20



< アンチ・ドーピング検査に関する情報 >

本年8月に開催されるアテネオリンピックを前に、WADA(World Anti-Doping Agency=世界アンチ・ドーピング機構、以下WADA) 規程の改定が行われた(2003年3月)。WADAによれば2004年1月、つまり本年から新しい規程を施行し、これを批准しないIF(International Federation=各競技の国際連盟) 選手のオリンピックへの参加は認めない方針である。このようなWADAの方針を裏付けるかのよう今年1月、UCI(世界自転車競技連合、以下UCI) がアテネオリンピック以前にWADAが策定した統一規程を採択する

方針であることが国内にも報道された。もちろんJCF(日本自転車競技連盟、以下JCF) はその立場上、UCIから正式に変更通知を受けない限り、即WADA規程に従った検査方式や罰則への転換という訳にはいかない。

ご存知のとおりWADAは、「オリンピックを始め各競技の国際連盟が主催する国際大会等におけるアンチ・ドーピング活動を促進し、調整することを目的」としてシドニーオリンピック前年の1999年に設立され、WADAの設立後の2001年にはWADA傘下団体として、日本国内におけるアンチ・ドーピン

グ活動を総括する機関としてJADA(Japan Anti-doping Agency=日本アンチ・ドーピング機構、以下JADA) が設立された。

これまでJCFのアンチ・ドーピング活動は、UCIアンチ・ドーピング検査規則に従い実施されている。WADA規程とUCIアンチ・ドーピング検査規則との間に差異はあるが、現状ではUCI加盟団体としてはその規則に従うのは当然であり、JADAも立場上JCFに対してWADA規程へ近づいて欲しい希望を持ちながらも、JCFの立場に理解を示してくれている。

UCIがWADA規程を批准した場合、使用薬物の申告方法が変わります

しかしながら、今世紀においてもスポーツが感動の原点であり続けるためには、スポーツの世界からドーピングを全廃させる必要があるという世界的なアンチ・ドーピング・ムーブメントを考慮すれば、各IFのアンチ・ドーピング検査規則を尊重しながらも核心部分の規程については、やがてWADA規程を批准せざるを得ない状況になることが予想される。

WADA規程によると:

競技者は競技会21日前までに書面で提出しなければならない。条件として;

- 1 急性、慢性疾患の治療中に、禁止物質や禁止方法が中止されたら健康上重大な障害を及ぼすこと
- 2 正当な医学的治療によって、正常な健康状態になるが、競技能力を増加させないこと
- 3 他に方法がないこと
- 4 適用期間を定める
- 5 適用が停止されることがある

上記に対して、

UCIアンチ・ドーピング検査規則によると:

Art 8: リスト内に別途規定されていない限り、禁止された種類に属するいかなる物質も、薬物投与方法も医療用に使用してはならない。別途規定されている場合には、競技者はこうした医療処置の証明ならびにかかる薬物の使用がこうした医療処置を行うために必要であることの証明を行わねばならない。

この他にも関連する規定は存在するが、上述した比較の中で競技者にとって問題になるのは、「治療を目的とする禁止物質の例外的使用(TUE)」申告書を競技会開催21日前までにJCFを通してJADA(およびUCI) に提出しなければならない点である。現在とっているUCIに準拠した方法では、各競技会で検査対象になった競技者が診断書を持参すればいいことになっており、取り扱いに大きな差がある。

UCIがWADA規程を批准した場合には、大会の時期を考慮して、使用できる可能性のある薬品、特に喘息の治療薬やアレルギー性鼻炎(花粉症)の治療薬を

本年1月に開催されたJADA研修会において、WADA規程の中の「治療目的の使用に関する国際基準パート2の4条2項 - 治療目的使用の適用措置の基準: International Standard for TUE. TUE: Therapeutic Use Exemptions - Part two Art 4.1: Standards for Granting Therapeutic Use Exemptions」が特に取り上げられ、今年の4月よりJADAの傘下団体に適用したい意向が伝えられた。

必ず申告しておかなければならない。また、薬局で簡単に購入することができる外用薬の中にも、21日前に申告書を提出する必要がある副腎皮質ステロイドを含有する薬品が多いため、軟膏類の使用に際しては格段の注意が必要になると思われる。

罰則が強化されます

誌面の関係上罰則の詳細にまで言及できないが、一例をあげると、取得した禁止薬物によってはこれまでと違い、最初の制裁から「2年間の資格剥奪」があるなど相当厳しいものになっている。

このJADAの意向は前述したとおり、UCIが批准しない限り本連盟としてはただちに従うわけにはいかないが、もしUCIがオリンピック前にWADA規程を批准し、その時点で国内連盟にこの内容を通知してきたときには、少なからず混乱することが予想される。混乱を防ぐためにもUCIとWADA間の「治療目的使用の適用措置の基準」の違いを下記に示すこととする。

今回の目的は、上述の規定に該当する競技者に最新の情報を提供することで、UCI規則の変更があった場合でも競技者にとって寝耳に水の構図は避けたい、そう願って記した次第である。予想されるWADA規程への対応を念頭におきつつ行動することは、競技者にとってマイナス面はない。ご質問がある場合には本連盟に問い合わせいただきたい。

(財)日本自転車競技連盟
アンチドーピング委員会 委員:

坂本 陽一(東北学院大学泉キャンパス図書館、
UCIアンチ・ドーピングインスペクター)

新津谷真人(北里大学医学部公衆衛生・公衆衛生学)

2003 ロード ランキング

[ロードレース]

男子エリート

1位 鈴木 真理
JPCA(EP)
4,506.1 p



E	氏名	所属	CI	Point	E	氏名	所属	CI	Point
64	橋本 健	鹿児島		436.0	135	岩本 晋也	鳥取	E	162.0
65	住田 修	大阪	Em	431.5	135	大村 萬里	静岡	E	162.0
66	高橋 祐介	栃木	E	430.4	137	齋藤 道明	福島	Em	160.0
67	行成 秀人	岡山	E	425.0	137	中村 孝志	滋賀	EP	160.0
68	宮沢 崇史	長野	E	410.6	139	小平 幸永	長野	E	158.6
69	林 裕也	北海道	E	401.0	140	高野 真一	山梨	E	157.7
70	土井 利延	山形	E	400.0	141	渋谷 淳一	JPCA	EP	152.6
70	大塚 英伸	JPCA	EP	400.0	142	早川 一郎	JPCA	EP	152.0
72	辻 俊行	大阪	Em	391.0	143	山本 泰裕	大阪	E	150.0
73	高野 篤	大東	E	384.4	143	加藤 康則	大愛	E	150.0
74	首我 暁男	愛媛	Em	375.7	143	平松 新一	愛知	Em	150.0
75	神野 勝	広島	Em	373.3	146	山田 正人	香川	Em	149.2
76	小口 直樹	東京	Em	370.5	147	小笠原 豊	高知	Em	148.5
77	江本 泰輔	東京	Em	366.8	148	新納 裕樹	北海道	E	144.0
78	浅野 義一	東京	E	360.0	148	内田 新二	JPCA	EP	144.0
78	飯田 義広	JPCA	EP	360.0	150	國分 俊幸	栃木	E	143.6
80	中里 聡史	埼玉	E	359.0	151	Barns Mark	石川	E	138.2
81	渡邊 哲平	京都	E	358.7	152	渡辺 忠義	三重	E	137.7
82	中田 真琴	奈良	E	347.6	153	末本 大克	広島	Em	136.7
83	大塚 潤	静岡	E	344.3	154	武藤 大輔	高知	E	136.0
84	管 洋介	東京	E	342.9	154	今村 保徳	JPCA	EP	136.0
85	笹井 秀治	京都	E	341.3	156	小倉 英治	香川	E	135.0
86	入井 直樹	北海道	Em	328.9	157	五島 則夫	神奈川	Em	132.0
87	寺本 道彦	島根	E	327.3	158	山田 隆史	東京	Em	131.5
88	宮崎 景涼	埼玉	E	321.0	159	福土 達朗	東京	E	131.2
89	林 次郎	福岡	EP	320.0	160	河村 茂夫	山口	Em	130.6
90	金井 慎次	静岡	E	318.0	161	五味 実	JPCA	EP	128.0
91	前田 健二	北海道	E	313.0	162	船山 崇	東京	E	127.2
92	長谷川 嘉男	北京	Em	305.4	163	神田 崇	兵庫	Em	125.7
93	馬場 武蔵	北海道	E	303.0	164	古賀 善行	大阪	E	123.3
94	菱山 毅	東京	E	297.4	165	福田 透	大滋	Em	123.2
95	宮原 淳	大阪	Em	283.2	166	小口 英之	栃木	Em	122.7
96	安東 英博	JPCA	EP	280.0	167	青木 誠	東京	E	122.0
97	杉 大輔	兵庫	E	278.8	168	木下 雅弘	北海道	E	121.5
98	藤田 晃三	埼玉	Em	274.5	169	菅 龍	東京	E	120.0
99	沼田 信也	神奈川	E	271.3	169	矢部 和彦	JPCA	EP	120.0
100	小泉 操	埼玉	Em	265.6	171	池畑 陽一郎	滋賀	Em	118.0
101	山根 理史	島根	E	255.6	172	古橋 孝之	鳥取	E	115.3
101	新沼 光	埼玉	Em	255.6	173	金子 英雄	JPCA	EP	112.0
103	本田 雅昭	埼玉	Em	248.0	174	森島 直人	愛知	Em	105.8
104	続本 健二	奈良	Em	243.7	175	引地 正人	JPCA	EP	104.0
105	石黒 大樹	山形	Em	240.0	176	大内 貴宗	宮城	E	103.5
105	武井 大介	JPCA	EP	240.0	177	東島 信行	兵庫	E	100.4
107	今井 靖治	京都	Em	237.2	178	八重樫 健治	岩手	Em	100.0
108	藤村 大吾	広島	Em	231.3	179	平林 昌樹	神奈川	E	99.2
109	岩橋 賦	東京	E	221.6	180	町田 広	神奈川	E	99.0
110	本間 啓介	山形	Em	217.4	181	北川 光治	福岡	Em	98.0
111	別府 匠	JPCA	EP	215.0	182	宇井 賢司	静岡	Em	97.8
112	鈴木 雷太	長野	EP	207.0	183	村山 利男	新潟	Em	97.2
113	横原 淳	徳島	E	206.9	184	森下 繁浩	大阪	Em	96.3
114	藤原 真	北海道	Em	202.5	185	千葉 浩	大岩	Em	96.0
115	中村 正壽	岩手	E	200.0	186	篠原 宏寿	北海道	Em	94.5
115	吉本 哲郎	広島	E	200.0	187	横山 弘樹	岡山	E	93.6
117	辻浦 圭一	奈良	E	198.0	188	宗政 昭弘	宮城	Em	93.2
118	中井 健二	JPCA	EP	196.0	189	石田 卓也	山形	Em	92.0
119	浜頭 恭	東京	Em	195.6	190	入江 克典	大阪	Em	91.2
120	四宮 哲郎	JPCA	EP	192.0	191	杉本 大輔	埼玉	E	90.3
121	酒井 紀章	福井	E	187.4	192	郷近 智久	東京	Em	90.1
122	金森 寛樹	三重	E	185.2	193	塩貝 哲夫	兵庫	E	90.0
123	武田 秀明	大阪	Em	185.1	194	斉藤 寛	山梨	Em	89.1
124	渥美 守弘	静岡	Em	184.8	195	竹本 勝政	愛媛	Em	88.5
125	白木 正彦	JPCA	EP	184.0	196	盛合 博美	岩手	Em	88.0
126	峯岸 文由	神奈川	Em	180.0	197	井上 晴雄	岡山	Em	85.9
126	清水 英樹	鳥取	Em	180.0	198	小室 雅成	埼玉	Em	85.6
128	三木 哲也	兵庫	E	176.7	199	石塚 浩二	埼玉	Em	84.0
129	秋山 雅俊	岡山	E	174.6	200	加藤 正道	北海道	Em	81.0
130	藤田 将志	三重	E	168.6	200	中垣 孝明	広島	Em	81.0
131	三宅 一平	JPCA	EP	168.0	200	班目 真紀夫	福岡	Em	81.0
132	飯田 輝男	茨城	E	166.0	203	大形 憲弘	山口	E	80.7
133	加ハリ林ジエリ	静岡	E	165.8	204	小野寺 保	北海道	E	80.0
134	二條 正則	埼玉	Em	164.2	204	高橋 秀作	秋田	E	80.0

E	氏名	所属	CI	Point	E	氏名	所属	CI	Point	E	氏名	所属	CI	Point
204	出井 光一	千葉	E	80.0	274	高柳 茂	静岡	Em	43.2	353	菅 宏和	千葉	E	19.2
204	朝倉 佳弘	東京	E	80.0	274	高橋 秀樹	静岡	Em	43.2	353	田代 敦康	東京	E	19.2
204	中本 ゆうゆう	岩手	Em	80.0	274	夜野 正紀	静岡	Em	43.2	353	石川 博康	東京	E	19.2
204	伊藤 博人	秋田	Em	80.0	274	高木 雅之	愛知	Em	43.2	353	佐藤 雅之	東京	E	19.2
204	小松 長	秋田	Em	80.0	274	佐藤 剛	三重	Em	43.2	353	片岡 吾朗	東京	E	19.2
204	色川 浩樹	茨城	EP	80.0	274	山口 逸人	兵庫	Em	43.2	353	岡野 陽一	東京	E	19.2
212	松井 正通	京都	Em	79.0	274	雨霧 吉則	奈良	Em	43.2	353	鈴木 健太郎	神奈川	E	19.2
213	大久保 宣行	埼玉	Em	78.5	274	松尾 正太郎	山口	Em	43.2	353	道面 弘樹	鳥取	E	19.2
214	大森 義一	山形	Em	76.0	289	三村 尚	岡山	Em	43.0	353	長友 俊之	宮崎	E	19.2
215	諸田 展明	東京	E	75.2	290	横須賀 達雄	神奈川	E	41.9	353	安藤 隼人	鹿児島	E	19.2
216	中村 元	滋賀	E	73.5	291	大根田 誠司	栃木	Em	40.7	366	吉野 広和	東京	E	18.4
217	斉藤 慶	東京	Em	72.4	292	藤田 勉	東京	E	40.5	367	硯 充生	大阪	Em	17.5
218	小玉 齊明	北海道	E	72.0	292	荻野 逸生	鳥取	E	40.5	368	三宅 悟史	大阪	Em	17.2
218	木曾 将史	秋田	E	72.0	292	正木 陽	山口	Em	40.5	369	福原 大	石川	E	16.2
220	國延 和弘	広島	Em	70.3	295	藤本 弥之助	山口	E	40.0	370	岩根 正晃	奈良	Em	16.1
221	藤岡 崇志	山口	E	69.8	295	三宅 宣資	大阪	E	40.0	371	岩畔 浩晃	広島	Em	16.0
222	徳竹 哲也	長野	E	69.1	295	林 雅紀	長野	E	40.0	372	池田 十志宏	愛知	Em	15.8
223	福田 崇哉	東京	Em	68.7	295	佐藤 力道	東京	E	40.0	373	根 弘	千葉	Em	15.5
224	島沢 由紀夫	静岡	E	67.7	295	小坂 正則	長野	Em	40.0	373	屋部 佳伸	静岡	Em	15.5
225	今野 秀幸	北海道	Em	67.5	295	村岡 哲	広島	Em	40.0	375	後藤 輝朗	千葉	Em	15.2
226	安井 広彦	長野	E	67.2	301	中島 雅央	大阪	Em	38.9	376	武藤 正芳	群馬	Em	15.1
227	池田 康成	岡山	Em	67.0	302	中田 尚志	東京	Em	38.8	377	松本 貞行	滋賀	Em	15.0
228	佐藤 成彦	千葉	Em	66.8	303	三浦 直人	大阪	E	37.6	378	磯部 雅治	岡山	Em	14.8
229	鳴谷 浩一	広島	E	64.8	304	渋谷 智一	群馬	Em	36.7	379	新井 剛	東京	E	14.0
229	佐藤 日出夫	北海道	Em	64.8	305	赤池 克治	香川	Em	35.6	380	原木 秀典	山口	E	13.9
229	KUIJKEN Filip	東京	Em	64.8	306	平松 竜司	東京	E	33.6	380	横尾 治彦	大阪	Em	13.9
232	清水 誠悟	大阪	E	64.4	307	梶 博	静岡	Em	33.1	380	小牧 悟	大阪	Em	13.9
233	諏訪 孝浩	東京	Em	64.3	308	LUIZ ALBERTO	静岡	E	32.9	383	高梨 真幸人	東京	Em	12.9
234	岡部 英人	富山	E	64.0	309	北村 茂雄	鳥取	E	32.4	384	山口 洋平	千葉	E	12.3
234	松永 和幸	沖縄	E	64.0	310	荻井 浩行	大阪	Em	32.0	385	松山 将嗣	静岡	Em	11.9
234	杉村 裕章	岩手	Em	64.0	311	花井 英昭	広島	Em	31.3	386	風間 慶晴	神奈川	E	11.8
234	戸高 義昭	長崎	Em	64.0	312	吉田 茂	兵庫	Em	30.6	387	小柳 貴之	福井	E	10.8
238	安東 秀倫	岡山	Em	62.6	313	森住 秀治	愛知	E	30.2	387	遠藤 績穂	千葉	E	10.8
239	佐藤 修	北海道	Em	62.1	314	田中 郁男	東京	E	30.0	387	滝山 信行	東京	Em	10.8
240	加藤 宏幸	大阪	E	62.0	315	鈴木 成樹	東京	Em	29.7	387	杉浦 正和	東京	Em	10.8
241	松村 明洋	京都	E	60.6	316	山崎 潤	神奈川	E	28.9	387	栗田 徳久	静岡	Em	10.8
241	堀口 秀義	大阪	Em	60.6	317	大内 達雄	東京	Em	28.4	392	竹木 秀一	福岡	E	10.7
243	南 裕樹	神奈川	E	60.0	318	中西 浩一	奈良	E	28.0	393	浦門 義人	兵庫	E	9.4
244	小笠原 崇裕	長野	E	59.4	319	幸本 弘樹	鳥取	E	27.0	394	村岡 勉	大阪	Em	8.0
244	足立 卓也	奈良	E	59.4	319	原 隆成	鳥取	E	27.0	395	立石 礼正	岐阜	E	7.5
244	相良 吉孝	兵庫	E	59.4	319	徳安 達士	福岡	E	27.0	395	伊藤 嘉浩	岐阜	Em	7.5
244	田中 豪	北海道	Em	59.4	319	坂本 恵一	大阪	Em	27.0	395	山本 篤司	京都	Em	7.5
248	作田 大祐	愛知	Em	58.7	319	松本 章人	鳥取	Em	27.0	395	小林 佳弘	広島	Em	7.5
249	戸田 慎吾	静岡	Em	57.7	319	竹内 俊二	鳥取	Em	27.0	399	小野 嘉之	東京	Em	6.4
250	酒屋 良和	広島	Em	57.4	319	吉野 勝雄	鳥取	Em	27.0	399	荒木 広一	大阪	Em	6.4
251	芹川 研一	北海道	Em	56.7	319	山崎 範行	岡山	Em	27.0	399	井上 亨	高知	Em	6.4
252	井柳 篤	静岡	E	56.2	327	鉄沢 孝一	石川	Em	26.3	399	白石 裕二	熊本	Em	6.4
252	関本 耕司	栃木	E	56.2	328	宗吉 貞幸	千葉	E	25.9	403	飯谷 将伸	千葉	E	5.9
254	池本 真也	神奈川	E	54.0	328	横田 光史	茨城	Em	25.9	404	落谷 宏明	静岡	E	5.4
254	斎藤 真規	滋賀	E	54.0	330	田中 政輝	京都	E	25.6	404	桑原 誠	岐阜	Em	5.4
254	山田 夏樹	北海道	Em	54.0	330	下村 昇	東京	E	25.6	404	辻本 勝彦	石川	Em	5.4
254	瀬野 宣久	大阪	Em	54.0	332	中堀 清治	兵庫	E	24.0	404	鍋谷 治	東京	Em	5.4
258	市川 哲也	広島	E	52.0	333	仲澤 俊	千葉	Em	23.8	404	殿岡 裕久	埼玉	Em	5.4
259	山下 哲幸	埼玉	E	51.9	334	渡会 重彦	愛知	Em	22.6	404	布留川 泰	埼玉	Em	5.4
260	山田 哲志	大阪	Em	51.8	334	茨木 雅士	大阪	Em	22.6	404	河野 正幸	東京	Em	5.4
261	山田 長作	北海道	E	51.3	336	丸畑 明彦	大阪	Em	22.5	404	佐宗 広明	東京	Em	5.4
261	田畔 嘉人	滋賀	Em	51.3	337	浅野 英明	東京	E	21.9	412	山口 隆彦	岐阜	E	4.3
263	坂上 哲也	京都	E	51.2	338	宮村 優	石川	Em	21.7	412	野溝 一貴	新潟	E	4.3
263	新出 哲也	神奈川	Em	51.2	339	世田 仁	東京	E	21.6	412	渡辺 貴博	広島	E	4.3
265	大橋 克弘	兵庫	Em	49.4	339	藤井 秀昌	北海道	Em	21.6	412	工藤 紀夫	宮崎	E	4.3
266	橋本 幸久	北海道	Em	48.6	339	戸津井 俊介	埼玉	Em	21.6	412	有賀 義文	埼玉	Em	4.3
266	近江 忠仁	京都	Em	48.6	339	吉井 功治	JPCA	EP	21.6	412	山崎 英樹	新潟	Em	4.3
266	吉田 安秀	広島	Em	48.6	343	布施 知洋	埼玉	Em	21.5	412	米山 慎一	静岡	Em	4.3
266	柳澤 正	愛知	Em	48.6	344	中津 顕	滋賀	Em	21.4					
266	塚野 満	千葉	Em	48.6	345	小谷 司	大阪	Em	20.1					
271	中島 義基	福岡	E	48.5	346	松岡 真治	愛媛	E	20.0					
272	織田 幸一	神奈川	Em	48.0	346	田中 政礼	大阪	E	20.0					
273	鷲沢 峰明	北海道	E	45.9	346	網谷 義広	大阪	Em	20.0					
274	原田 圭将	千葉	E	43.2	346	山口 忠行	広島	Em	20.0					
274	内藤 泰志	東京	E	43.2	346	高島 光	兵庫	Em	20.0					
274	浜 久之	長野	E	43.2	346	網永 義広	大阪	Em	20.0					
274	平岡 直樹	京都	E	43.2	352	丸山 泰志	三重	E	19.8					
274	池田 勝之介	東京	E	43.2	353	小野 勇	北海道	E	19.2					
274	岡和田 真治	東京	Em	43.2	353	神崎 恒二	茨城	E	19.2					
274	大石 一夫	長野	Em	43.2	353	板東 陽平	茨城	E	19.2					

ロード・トラック
カテゴリー区分

エリート：E
(プロ：EP、マスター：Em)

アンダー23：U

ジュニア：J
(15才：Ju、18才で1～3月生：Js)

男子U23

1位 土井 雪広
山形(U)
3,182.2 p



U	氏名	所属	CI	Point	U	氏名	所属	CI	Point
74	佐々木 悠哉	奈良	良口	126.2	149	園田 鉄兵	北海道	U	19.2
76	真鍋 英祐	山岐	泉	126.0	149	安田 篤史	青森	U	19.2
77	吉田 将宏	石川	青森	125.4	149	佐々木 斎人	青森	U	19.2
78	石田 誠	石川	川良	124.0	149	石崎 和寿	青森	U	19.2
79	中村 誠	石川	川良	123.0	149	高橋 辰徳	青森	U	19.2
80	上田 誠	石川	川良	120.0	149	高橋 辰徳	青森	U	19.2
81	坂本 裕季	兵庫	庫島	120.0	149	高橋 基統	青森	U	19.2
82	糸賀 賢司	福島	都	115.8	149	田中 雄介	秋田	U	19.2
83	高塚 大八	京都	都	115.2	149	高橋 寛	秋田	U	19.2
84	山本 貴和	京都	都	108.6	149	小野 栄泰	秋田	U	19.2
85	山本 和弘	北海道	海	108.0	149	山口 史	福島	U	19.2
86	高月 孝	東京	都	100.8	149	鈴木 純一	福島	U	19.2
87	中野 清太郎	東京	都	99.4	149	小倉 知幸	福島	U	19.2
88	櫻川 裕一	鹿児	島	99.2	149	齊藤 大樹	茨城	U	19.2
89	西村 尚	鹿児	島	97.4	149	田中 清	茨城	U	19.2
90	鳴川 将一郎	大阪	府	95.5	149	仲 正樹	埼玉	U	19.2
91	江口 航平	東京	都	94.2	149	山我 宗永	埼玉	U	19.2
92	古賀 啓太	東京	都	92.8	149	花井 尾	埼玉	U	19.2
93	岡田 将	茨城	都	88.0	149	丸尾 純二	千葉	U	19.2
94	竹内 忍	福島	都	86.4	149	花澤 健	千葉	U	19.2
94	小堺 浩二	福石	滋	86.4	149	中川 健	東京	U	19.2
96	中村 幸弘	滋	滋	83.2	149	小野 正樹	東京	U	19.2
96	鈴木 幸弘	滋	滋	83.2	149	中田 宗	東京	U	19.2
98	岩藤 司朗	山口	都	82.1	149	畠中 宗	東京	U	19.2
99	斉藤 翔樹	千葉	都	80.0	149	清水 翔	東京	U	19.2
99	中国 直樹	福岡	都	80.0	149	平野 賢	東京	U	19.2
101	倉部 雄司	東京	都	78.0	149	利根 康之	東京	U	19.2
102	泉川 芳則	香川	都	74.2	149	石田 三始	東京	U	19.2
103	安川 智朗	静岡	都	73.7	149	橋本 淳平	東京	U	19.2
104	廣瀬 健一	静岡	都	67.2	149	小林 拱	東京	U	19.2
105	竹沢 浩司	富山	都	67.0	149	郷田 純	東京	U	19.2
106	市村 彰	富山	都	64.0	149	勝島 義史	東京	U	19.2
107	平林 大宜	岐阜	都	62.2	149	吉田 哲生	東京	U	19.2
107	三浦 真一郎	和歌	都	62.2	149	山崎 裕也	東京	U	19.2
109	佐藤 公威	滋賀	都	56.0	149	羽毛 田泰	東京	U	19.2
110	宮田 晃	千大	岩	54.0	149	下冲 功児	東京	U	19.2
111	白石 悟	大岩	阪	51.8	149	宗像 啓郎	東京	U	19.2
112	佐々木 紘	京都	都	51.2	149	吉松 聡	東京	U	19.2
112	山本 雄介	京都	都	51.2	149	上崎 史登	東京	U	19.2
112	陸野 圭司	大阪	府	51.2	149	和田 明樹	東京	U	19.2
112	奥田 圭一	奈良	都	51.2	149	和田 明樹	東京	U	19.2
112	佐藤 善之	愛知	都	51.2	149	山田 賢	神奈川	U	19.2
117	堀切 善之	東京	都	48.0	149	忸川 正樹	神奈川	U	19.2
117	藤原 陽介	大分	都	48.0	149	外山 博	神奈川	U	19.2
119	木庭 翔作	山口	都	47.3	149	笠井 直樹	神奈川	U	19.2
120	佐藤 祐作	北海道	都	44.8	149	内田 啓太	神奈川	U	19.2
120	濱田 隆行	京都	都	44.8	149	鈴木 計哉	神奈川	U	19.2
120	森 隆司	香川	都	44.8	149	高森 旭	神奈川	U	19.2
123	岡田 真	香川	都	43.2	149	鈴木 雄一	山梨	U	19.2
123	入谷 壽輝	香川	都	43.2	149	大橋 穂高	山梨	U	19.2
125	柴田 祐也	岐阜	都	43.0	149	古川 学	山梨	U	19.2
125	片山 智晴	山梨	都	43.0	149	原口 賢一	山梨	U	19.2
127	高江洲 昌	東京	都	35.1	149	武藤 哲	長野	U	19.2
128	小渡 健吾	東京	都	32.0	149	菅藤 隆志	長野	U	19.2
128	白石 裕一	熊本	都	32.0	149	田上 慎也	長野	U	19.2
128	飯塚 隆文	熊本	都	32.0	149	関根 浩三	長野	U	19.2
128	岩瀬 誠也	熊本	都	32.0	149	田中 善展	長野	U	19.2
128	岡崎 利彦	神奈川	都	32.0	149	小川 明穂	長野	U	19.2
128	小塚 真也	石川	都	32.0	149	松田 大作	長野	U	19.2
128	多田 光	滋賀	都	32.0	149	大槻 泰平	長野	U	19.2
128	米田 徹	滋賀	都	32.0	149	大槻 泰平	長野	U	19.2
128	中尾 良	鳥取	都	32.0	149	広瀬 翔平	富山	U	19.2
137	明珍 周兵	福島	都	28.8	149	池田 保正	富山	U	19.2
138	湊 雅晃	石川	都	27.9	149	福田 悠真	富山	U	19.2
139	福井 直	石川	都	27.0	149	鈴木 貴之	富山	U	19.2
140	島田 迅	京都	都	25.6	149	加藤 久詞	愛知	U	19.2
140	丸尾 修典	大分	都	25.6	149	柴崎 俊光	三重	U	19.2
142	三嶋 忠	北海道	都	24.0	149	佐野 伸弥	三重	U	19.2
142	小島 卓	北海道	都	24.0	149	植村 幸司	三重	U	19.2
142	久間 泰	北海道	都	24.0	149	小柴 景仁	京都	U	19.2
142	後藤 明成	長野	都	24.0	149	中井 隆之	京都	U	19.2
142	前田 吉昭	長野	都	24.0	149	新谷 和仁	京都	U	19.2
142	田辺 勝規	石川	都	24.0	149	新谷 和仁	京都	U	19.2
148	宮本 学	千葉	都	22.6	149	桜井 太士	鳥取	U	19.2
149	佐藤 保徳	北海道	都	19.2	149	長谷 勇武	香川	U	19.2
149	若木 修	北海道	都	19.2	149	相原 章吾	徳島	U	19.2
149	大橋 里	北海道	都	19.2	149	榎山 新太郎	徳島	U	19.2
149	木村 悠	北海道	都	19.2	149	本田 浩章	徳島	U	19.2
149	辻 貴行	北海道	都	19.2	149	播正 圭史	徳島	U	19.2
149	鍋谷 潤	北海道	都	19.2	149	谷川 幸穂	徳島	U	19.2
234	遠藤 継	北海道	都	19.2	234	遠藤 継	北海道	都	18.4

男子ジュニア

1位 畑中 勇介
東京(J)
1,747.0 p



J	氏名	所属	Cl	Point	J	氏名	所属	Cl	Point
72	内田 晃弘	静岡岡	J	146.0	148	高橋 隆之	宮城	Ju	65.5
73	古川 尚耶	栃木	J	142.3	151	山野内 一平	高岡	J	64.4
74	仲村 天晴	秋田	J	141.3	151	大森 健太郎	高岡	J	64.4
75	湯坐 純	福島	J	140.0	153	恒太 竜	兵庫	J	64.0
76	吉次 裕司	山口	Js	139.0	153	木原 竜一	福井	J	64.0
77	菅沼 大地	東大阪	J	138.9	153	千嵐 大佑	福新	Js	64.0
77	村田 建一	京阪	J	138.9	156	河野 優	新潟	J	63.1
79	柴田 一樹	大分	J	133.5	157	大原 慎史	大島	Ju	63.0
80	網谷 竜次	香川	J	132.8	158	渡辺 耕三郎	神奈川	J	62.8
81	岡豊 洋二	和歌山	Ju	131.7	159	遠山 博俊	岩手	J	61.9
82	金澤 竜二	福島	J	131.0	160	小林 勇介	高知	Ju	60.8
83	紅谷 晃	香川	Ju	130.7	161	佐伯 匠	京都	J	60.4
84	池田 諒	群馬	Ju	129.5	162	宮松 秀行	岐阜	J	60.0
84	池田 雄一	群馬	Ju	129.5	162	満永 一平	静岡	J	60.0
85	高木 雄太	香川	J	128.1	162	稲川 翔	静岡	J	57.6
86	大塚 荘一	栃木	J	126.8	164	石戸 宏康	大岡	Js	56.3
87	武田 正幸	新潟	J	125.8	165	星 幸太郎	大岡	J	56.2
88	福田 正寿	茨城	J	121.0	166	北岡 健太	宮城	J	56.0
89	高見 澤文	神奈川	J	120.2	167	平岡 浩介	大愛	J	56.0
90	鬼塚 智裕	熊本	J	118.4	167	清水 真	高知	Ju	55.0
91	佐藤 智徳	福岡	J	117.0	169	田村 智彦	高知	Js	54.0
92	櫻山 恭柄	福岡	J	116.3	170	川崎 智貴	高知	Ju	54.0
93	中山 雄紀	兵庫	J	116.0	170	藤岡 健一	高知	Ju	54.0
94	黒岩 瑛航	高知	J	113.5	170	廣木 源一郎	高知	Ju	53.5
95	大塚 純也	京都	J	112.9	173	柳岡 祐介	高知	Ju	52.3
96	石坂 純也	岡山	Ju	112.5	174	岡田 訓尚	京都	J	51.1
97	豊岡 哲生	佐賀	J	109.7	175	岡田 訓尚	京都	J	51.1
98	高橋 潤	岩手	J	105.8	176	佐伯 翔	福宮	Ju	50.3
99	中島 和夫	岐阜	J	104.0	177	身崎 琢磨	宮城	Js	50.0
99	土屋 壮登	埼玉	Ju	104.0	178	鈴木 龍之介	愛媛	Ju	49.8
101	渡士 和浩	奈良	J	103.3	179	長谷部 健太	高知	J	49.6
102	森本 隆太	和歌山	J	103.0	180	齋藤 優一	高知	J	49.6
103	後藤 弘史	広島	J	101.7	181	乙丸 貴司	福岡	J	48.2
104	黒田 優	北海道	J	101.3	182	丸山 直樹	福岡	J	47.3
105	房州 輝也	福島	J	100.8	182	原田 悠司	香川	J	47.3
105	武井 宗大	神奈川	J	100.8	182	新垣 健央	香川	J	47.3
107	阿久津 優一	熊本	J	100.0	185	梅田 隆史	鳥取	J	47.1
108	石川 洋介	熊本	J	99.5	186	渡邊 正光	福岡	Ju	46.9
108	山本 雅之	奈良	J	99.5	187	長野 宗一郎	岐阜	J	46.0
110	和田 昌也	奈良	J	96.5	188	中村 光	千山	J	45.5
111	林 広大	愛媛	J	96.0	188	坂本 拓也	青森	J	45.5
112	藤井 大知	香川	J	95.5	188	小野 寺政人	青森	Ju	45.5
113	田中 聡	埼玉	Js	94.0	188	湯浅 徹	千葉	Ju	45.5
114	漆澤 均志	岩手	J	93.6	192	宮武 正剛	香川	J	44.4
115	桜打 隆志	富山	J	92.0	193	大久保 光次	宮城	Ju	43.6
116	森 良	広島	J	90.0	194	増田 智仁	栃木	J	43.5
116	齋藤 雄介	山形	J	90.0	195	野口 遼太	京都	J	43.0
118	佐々木 亮	宮城	J	88.5	196	田口 和広	東京	J	42.8
119	宮本 芳明	静岡	J	88.0	197	奥田 賢司	東京	J	41.6
120	西本 光志	高岡	Ju	87.8	198	加山 隆行	宮城	J	40.0
121	三河井 翼	京都	J	87.6	198	藤森 達也	長野	J	40.0
122	持田 哲智	鳥根	J	86.4	198	高木 健也	富山	J	40.0
123	植村 翼	秋田	J	86.0	198	岡田 崇宏	石川	J	40.0
123	高橋 韻旨	岐阜	J	86.0	198	神野 大輔	石川	J	40.0
125	川又 裕樹	鹿島	J	81.6	198	藤岡 純平	石川	J	40.0
126	森山 大知	神奈川	Js	81.2	198	田川 享一	奈良	J	40.0
127	後藤 辰徳	岐阜	J	78.0	198	熊谷 薫	福島	Js	40.0
128	田中 淳一	奈良	J	76.5	198	所 澄人	福愛	Ju	40.0
129	鎌田 雄樹	宮崎	J	74.9	207	佐野 健太郎	埼玉	J	39.0
130	佐藤 康恭	福島	J	74.3	207	信本 慶士	鳥取	J	39.0
130	小原 伸哉	北海道	Ju	74.3	209	岡林 秀樹	高知	J	37.6
132	小林 浩二	福島	J	74.0	210	遠藤 邦明	宮城	J	36.9
132	菊池 守央	京都	J	74.0	211	鈴木 良典	静岡	J	36.0
134	市山 研輔	神奈川	Ju	72.9	211	東 慎二郎	京都	J	36.0
135	石原 俊輔	山梨	J	72.0	213	八尋 翔平	福岡	J	33.8
135	望月 輔	沖縄	J	72.0	213	中村 公平	福岡	Ju	33.8
137	佐々木 晋也	東京	J	71.1	215	辻中 国宏	京都	J	33.6
138	真船 拓磨	福島	J	70.6	215	坂本 哲視	山形	J	33.6
139	松田 優一	茨城	J	70.0	217	井上 玄	山形	J	33.5
140	藤野 孝彦	茨城	J	69.5	217	松崎 邦浩	山形	J	33.5
141	山田 零	神奈川	J	68.4	217	小野 悠太	福島	Ju	33.5
142	小川 達也	静岡	J	68.0	220	佐々木 幸二	福宮	J	32.4
143	甲斐原 圭輔	北海道	J	67.5	221	日高 竜志	京都	Ju	32.2
143	岸澤 賢太	埼玉	J	67.5	221	丸山 慎平	宮城	Ju	32.2
145	万代 真之	鳥根	J	67.3	223	竹山 陵太	宮城	J	32.0
146	井上 輝久	熊本	Ju	67.1	223	中村 由広	福島	J	32.0
147	辻本 翔太	埼玉	J	65.8	223	寺田 紘也	群馬	J	32.0
148	橋場 良輔	岩手	J	65.5	223	池浦 敏彦	新潟	J	32.0
148	金澤 幸司	福島	J	65.5	223	中野 裕介	新潟	J	32.0

J	氏名	所属	CI	Point	J	氏名	所属	CI	Point
223	大久保淳一	福井	J	32.0	288	藤井宏幸	岡山	J	16.0
223	佐野雄希	井知	J	32.0	288	連佛康浩	岡山	J	16.0
223	森愛一郎	愛三	J	32.0	288	若林茂昭	岡山	J	16.0
223	數馬明展	重取	J	32.0	288	竹安則繼	広島	J	16.0
223	吉田亮	岡山	J	32.0	288	中村弦太	広島	Ju	16.0
223	東中川亮	兵庫	J	32.0	288	川本琢也	岡山	Ju	16.0
223	松田洋之	沖繩	Ju	32.0	288	大谷純也	岡山	Ju	16.0
235	永澤剛	青森	J	31.1	288	鈴木隆	山形	Ju	16.0
235	坂田章	高知	J	31.1	288	佐藤寿起	山形	Ju	16.0
237	石川雅望	群馬	J	30.0	288	柘原翔太	神奈川	Ju	16.0
238	木庭恭平	神奈川	J	29.5	288	小谷実	京都	Ju	16.0
238	横山竜	神奈川	J	29.5	288	宮内強	広島	Ju	16.0
238	栗駒匡樹	京都	J	29.5	288	長谷部慶介	高知	Ju	16.0
238	福山真史	京都	Ju	29.5	288	阿部将兵	大分	Ju	16.0
242	玉田木彌	熊本	Ju	28.4	288	露口靖史	大分	Ju	16.0
243	根本大地	東京	J	28.0	321	門脇直人	秋田	J	14.9
244	伊藤英輔	青森	J	27.0	321	遠山玄	京都	J	14.9
244	濱村亮輔	青森	J	27.0	321	和田光司	高知	J	14.9
244	木村龍聖	鳥取	Js	27.0	321	桑江太	高知	J	14.9
244	橋本龍聖	熊川	Ju	27.0	325	須賀和耶	茨城	J	13.5
248	魚住直也	神奈川	J	26.8	325	横田政直	群馬	J	13.5
249	米倉賢	岩手	J	26.0	325	高柳久史	群馬	J	13.5
250	丸山幸洋	福岡	J	25.7	325	湯澤優太	群馬	J	13.5
251	井上卓	秋分	J	24.3	325	吉田茂	埼玉	J	13.5
251	後藤健一	大分	J	24.3	325	阿部晋也	埼玉	J	13.5
251	吉岡正智	奈良	Ju	24.3	325	田中晴基	千葉	J	13.5
254	渡辺光義	岩手	J	24.0	325	久保田浩章	東京	J	13.5
254	須崎歩	東京都	Js	24.0	325	前田健志	神奈川	J	13.5
256	福田政好	和歌山	J	23.0	325	渡辺貴志	神奈川	J	13.5
256	保田昌弘	和歌山	J	23.0	325	今井勇二	京都	J	13.5
256	入野亮太	高知	J	23.0	325	山口健治	大阪	J	13.5
259	栗田雄矢	静岡	J	22.0	325	原田大樹	大阪	J	13.5
260	田村大輝	栃木	J	21.6	325	榊原卓	大阪	J	13.5
260	森佑樹	岡山	J	21.6	325	木山健三	愛媛	J	13.5
260	中村健志	熊川	J	21.6	325	稲垣佑記	愛媛	J	13.5
263	高橋徹	青森	J	20.3	325	松尾玄太	佐賀	J	13.5
263	橋本勇人	和歌山	J	20.3	325	中嶋健太郎	熊本	J	13.5
263	松尾大輔	愛媛	J	20.3	325	辻雅人	熊本	J	13.5
263	秋山寛	東京	Ju	20.3	325	岡崎世紘	熊本	J	13.5
263	安福洋徳	奈良	Ju	20.3	325	佐藤隆紀	熊本	J	13.5
268	島田拓也	長崎	J	20.0	325	中嶋功慈	熊本	J	13.5
268	西川慶	奈良	J	20.0	325	金野亮太	熊本	J	13.5
268	新田祐	福島	J	20.0	325	東矢昇	熊本	J	13.5
268	小久保孟	福島	J	20.0	325	黒田岳	熊本	J	13.5
268	藤森大輝	香川	J	20.0	325	高山幸志郎	熊本	J	13.5
273	深谷信行	福島	Js	19.2	325	秦行貴	大分	J	13.5
273	木村圭助	東京	Js	19.2	325	清水克久	鹿児島	J	13.5
273	吉田拓也	東京	Js	19.2	325	折尾昭吾	鹿児島	J	13.5
273	吉澤広樹	長野	Js	19.2	325	池上靖朗	鹿児島	J	13.5
273	青木康貴	岐阜	Js	19.2	325	神山拓弥	栃木	Ju	13.5
273	渡辺良太	京都	Js	19.2	325	針谷大二郎	栃木	Ju	13.5
273	後藤仁志	熊川	Js	19.2	325	関佑紀	群馬	Ju	13.5
280	山辺尚弘	青森	J	18.9	325	大塚悟	京都	Ju	13.5
280	米村俊	東京	J	18.9	325	佐野洋	京都	Ju	13.5
280	鷲原大直	岡山	J	18.9	325	石川祐也	大阪	Ju	13.5
284	福島武貴	香川	J	18.9	325	武田和也	奈良	Ju	13.5
284	六本木洋貴	群馬	J	17.6	325	堀登志也	香川	Ju	13.5
284	大山親良	香川	J	17.6	325	新居広一郎	徳島	Ju	13.5
286	豊美春平	東京	Ju	16.2	325	森澤拓人	高知	Ju	13.5
286	村上貴宏	香川	Ju	16.2	365	村上貴彦	栃木	J	10.8
288	山下太一	兵庫	J	16.0	365	山口勝太	群馬	J	10.8
288	本柳勇樹	福島	J	16.0	365	瀧野勝太	群馬	J	10.8
288	村田健太	埼玉	J	16.0	365	横田啓之	群馬	J	10.8
288	栗原信一郎	神奈川	J	16.0	365	千田高広	千葉	J	10.8
288	米川尚幸	石川	J	16.0	365	古川宗	東京	J	10.8
288	日野原暢二	兵庫	J	16.0	365	庄司元樹	東京	J	10.8
288	百津彰宏	兵庫	J	16.0	365	秋元佑一朗	神奈川	J	10.8
288	北潟佑太	奈良	J	16.0	365	横山英一	神奈川	J	10.8
288	安藤浩規	取	J	16.0	365	須山秀明	神奈川	J	10.8
288	上野嘉祿	鳥取	J	16.0	365	手計正人	茨城	Ju	10.8
288	阪本清剛	鳥取	J	16.0	365	勝沼麗生	埼玉	Ju	10.8
288	中島真一	鳥取	J	16.0	365	光富雄也	千葉	Ju	10.8
288	南條友弥	鳥取	J	16.0	365	近藤寛	東京	Ju	10.8
288	白石良哉	鳥根	J	16.0	365	石田勝	東京	Ju	10.8
288	石坂永伍	岡山	J	16.0	380	藤原隆史	北海道	Ju	9.4
288	栗田徹	岡山	J	16.0					
288	齊藤伸行	岡山	J	16.0					
288	高原健佑	岡山	J	16.0					

女子

1位 中村 珠藻
奈良(U)
3,406.5 p



F	氏名	所属	Ca	Point
2	唐見実世子	石川	E	2997.3
3	坂田佳子	兵庫	Em	2059.0
4	中山朋子	神奈川	Em	2048.0
5	大塚歩	栃木	E	1922.5
6	村中恵美子	東京	E	1873.0
7	小野山恵美	愛媛	E	1852.5
8	許斐真由子	鹿児島	E	1614.0
9	斎藤綾	秋田	U	1567.5
10	青木春恵	秋森	U	1497.5
11	沖美穂	JPCA	EP	1400.0
12	萩原麻由子	群馬	J	1357.0
13	梅野敦子	京都	J	1258.8
14	高橋いづみ	東京	Em	1150.0
15	永田萌子	大分	J	1142.5
16	濱田真子	大分	Em	1053.3
17	酒井真清	大阪	U	1051.0
17	松永美	大分	U	1051.0
19	森本朱美	鳥取	Em	1020.0
20	宮崎杏菜	大分	J	956.0
21	伊与田尚加	静岡	E	948.8
22	大森智子	京都	Em	947.8
23	福原昌代	北海道	U	887.0
24	小高セツコ	埼玉	Em	809.9
25	岡野尚美	静岡	Em	687.0
26	仲江美	新潟	Ju	664.2
27	古川ひとみ	新潟	Ju	649.8
28	真下正美	神奈川	E	640.0
29	石井寛子	埼玉	J	621.5
30	南部博子	福岡	EP	600.0
31	佐藤美香	分	J	586.7
32	石井麻実	大分	E	564.1
33	山口麻理子	福井	Em	544.0
34	細矢由美子	神奈川	Em	528.0
35	杉村久美	岩手	Em	524.0
36	飯田香里	埼玉	Em	502.5
37	岡田由佳子	愛知	J	500.2
38	佐藤智子	福島	E	488.0
39	伊藤真里子	京都	Em	487.5
40	小野翔子	栃木	U	480.8
41	加藤紀衣	大阪	E	471.0
42	玉城さち	大分	U	460.0
43	矢沢みつみ	山梨	Em	411.0
44	綾野桂子	埼玉	Em	399.5
45	前川康子	奈良	U	399.2
46	岡田未来	京都	E	346.0
47	豊田英子	大阪	E	332.0
47	遠山恵	大分	U	332.0
49	西加南子	千葉	Em	320.0
49	長谷留美子	石川	Em	320.0
51	佐藤紗矢	北海道	U	306.4
52	栗原瞳	埼玉	Ju	300.1
53	狩俣けい子	大阪	E	217.5
54	森智恵美	京都	Ju	205.0
55	和田見里美	鳥取	Ju	202.5
56	木村清香	福井	E	200.0
57	志村由喜	神奈川	J	183.6
58	小淵千恵	群馬	J	176.6
59	門倉千尋	神奈川	J	169.2
60	河端あゆみ	鳥取	Ju	162.0
61	平松智子	愛知	E	160.8
61	庄野友香	神奈川	J	160.8
63	中込由香里	長野	Em	160.0
64	堀友紀代	神奈川	U	147.4
65	楠里紗	東京	U	144.0
66	今泉奈緒美	東京	U	140.7
67	篠崎新純	千葉	U	136.0
68	八代純子	東京	E	134.0
69	志村みち子	長野	E	127.3
70	中島あゆみ	東京	U	120.6

F	氏名	所属	Ca	Point	F	氏名	所属	Ca	Point	F	氏名	所属	Ca	Point	
71	関家 朋子	東京	Em	120.0	81	三浦真友子	兵庫	E	68.0	90	仁藤ひろみ	静岡	岡	U	51.0
71	菊池日出子	福島	J	120.0	81	増子 郁代	東京	Em	68.0	92	櫻井 夕香	埼玉	J	E	48.0
73	小栗 美樹	岐阜	Em	118.1	83	山本真梨子	岩手	J	66.0	93	越田恵美子	石川	E	J	47.6
74	井上 玲美	東京	Ju	102.0	84	花山 千宏	宮城	J	63.0	94	平中あゆ美	岩手	U	U	45.6
75	仲 真理子	兵庫	E	88.0	85	平岩 悠子	京都	J	60.0	95	高橋 美保	千葉	Em	Em	44.0
76	加藤 尚恵	埼玉	U	87.4	85	笠真 聡美	岡山	Ju	60.0	96	畑野 りえ	山梨	Em	Em	40.0
77	池田 桂子	大阪	E	80.0	87	谷村祐美子	大阪	U	59.4	97	長戸 芙文	鳥取	J	J	39.0
77	小山美貴子	埼玉	Em	80.0	88	高倉 実希	岩手	U	57.0	98	栗原 松江	埼玉	U	U	36.0
79	小谷 翠	愛媛	E	76.0	89	中曾 綾香	福岡	E	56.0	99	金子 沙織	東京	U	U	33.6
80	岡 希美	群馬	Ju	69.0	90	蛭名 有希	青森	J	51.0	100	藤田あずか	東京	U	U	31.2

～ 競技運営委員会からのお知らせ ～

競技運営委員会
委員長 岡田 行雄

2004年JCFランキング制度(トラック・ロード)について

競技運営委員会として、昨年よりランキング制度の見直しの検討を重ねてまいりました結果、2004年は休止することになりましたのでお知らせします。なお、ランキング制度休止に伴い、主要大会の申込資格が変更となりますのであわせてお知らせします。

ランキング制度休止に伴い申込資格が変更となる平成17年度開催主要大会

- 1) 全日本自転車競技選手権ロード・レース
日本国籍を有し、日本自転車競技連盟及びUCI加盟国で2005年度競技者登録を完了した者で、男子競技者(P、E)と高校生以上の女子競技者
男子 申込資格獲得大会 完走者
2005年にUからEに変更になった競技者
本連盟及び加盟団体の推薦者
女子 申込資格獲得大会 完走者
本連盟及び加盟団体の推薦者
- 2) 全日本アマチュア自転車競技選手権ロード・レース
日本国籍を有し、日本自転車競技連盟及びUCI加盟国で2005年度U競技者登録を完了した者で、'83～'86年生まれの男子競技者
申込資格獲得大会 完走者
2005年にJからUに変更になった競技者
本連盟及び各都道府県連盟の推薦者
- 3) ジュニア全日本選手権ロード・レース
日本国籍を有し、日本自転車競技連盟及びUCI加盟国で2005年度J競技者登録を完了した者で、'87～'88年生まれの男子競技者
申込資格獲得大会 完走者
平成16年度全国高校選抜ロード・レース 上位30名
第30回チャレンジサイクルロード・レースA-J 上位6名
第10回西日本チャレンジロード・レースA-J 上位6名
本連盟及び都道府県連盟の推薦者
- 4) 全日本選手権個人タイム・トライアル・ロード・レース大湊大会
日本国籍を有し、日本自転車競技連盟及びUCI加盟国で2005年度P、E、U、J競技者登録を完了した男女競技者
申込資格獲得大会 完走者
本連盟及び都道府県連盟の推薦者
- 5) 全日本アマチュア自転車競技選手権トラック・レース
日本国籍を有し、日本自転車競技連盟及びUCI加盟国で2005年度アマチュア競技者登録を完了した男女競技者
・個人種目
申込資格獲得大会 成績上位者
本連盟及び都道府県連盟の推薦者 基準タイム到達者
・団体種目
TP：学連、高体連、実業団がそれぞれ推薦するチームと出場希望都道府県連盟が推薦したチーム(基準タイム到達チーム)
TS：学連、高体連、実業団がそれぞれ推薦するチームと出場希望都道府県連盟が推薦したチーム(基準タイム到達チーム)
MA：学連、実業団がそれぞれ推薦するチームと出場希望都道府県連盟が推薦したチーム

[申込資格獲得大会]

- <ロードレース> Japan Cup(UCI1.3)、ツール・ド・沖縄(UCI1.5)、全日本選手権(IR)〔TT(E・U23・J・女子)〕、全日本[♂]選手権、全日本アマチュア選手権、ジュニア全日本選手権、国民体育大会、都道府県対抗、全日本実業団(IR(BR-1・女子))〔TT〕、全日本大学対抗、学生選手権大会(IR)〔TT〕、全国高校総体(IR)〔TT〕、全国高校選抜、チャレンジ・ロード(E・U23・J・女子)、北日本チャレンジ・ロード(E・U23・J・女子)、西日本チャレンジ・ロード(E・U23・J・女子)
- <トラックレース> 全日本選手権、全日本アマチュア選手権、JOCカップ、国民体育大会、都道府県対抗、全日本実業団、全日本大学対抗、学生選手権、全国高校総体、全国高校選抜

(財)日本自転車競技連盟 競技規則集2004年版 改訂事項一覧表**第2章 ライセンス(登録証)**

第5条 (登録者)

1. 定義:

ライセンスはその所持者が諸定款ならびに諸規則を順守する義務を負ったことを確約する証書であり、これはその所持者に自転車競技に参加する権利を与えるものである。

ライセンス所持中の行為に関する制裁はライセンスを失った後であっても適用される。

第6条 (競技者)

1. 競技者のカテゴリ(区分)

- (1) UCIにおいては、競技者のカテゴリを以下のように定める。ただし、年齢の基準は、各暦年中に達する年齢で区分する。

①男子

1. ユース: 16歳以下
2. ジュニア: 17および18歳
3. アンダー-23(U23): 19~22歳。ただしこの年齢でもロード競技においてはトレードチーム/III競技者はエリートとする。シクロクロス競技においてはトレードチームIIに属するこの年齢の競技者はエリートとする。トレードチームを辞めた競技者はU23カテゴリに戻らなければならない。
4. エリート: 23歳以上
5. マスターズ: 30歳以上の競技者でこの区分を選択した者。ただしロード競技においてはトレードチームI/II/IIIに属する競技者はこれを選択できない。

6. 身体障害を持つ競技者

②女子

1. ユース: 16歳以下
2. ジュニア: 17および18歳
3. エリート: 19歳以上
4. マスターズ: 30歳以上の競技者でこの区分を選択した者。トレードチーム(女子)に属する競技者はこれを選択できない。
5. 身体障害を持つ競技者

- (2) 本連盟においては、競技者のカテゴリを以下のように定め、さらに性別により分類する。ただし、年齢の基準は、各暦年中に達する年齢で区分する。

③ピギナー

1. ピギナー競技者であって、上記①②以外の競技者。
2. 16歳未満の競技者は原則としてすべてピギナー登録とする。

第3章 競技者の装備

第8条 (装備)

競技者の基本的装備についてはUCI規則に準じ、以下のとおりとする。

1. 競技者は、競技参加時には袖付きのジャージと短いパンツを着用する。ひざ上までのものが短いパンツと解されるワンピース形式も認められるが、袖なしは禁止する。マウンテンバイクのダウンヒルと4クロスの場合、防護用レギンズを着用してよい。
4. ロードレースにおいても、競技・練習において本連盟公認のヘルメットの着用を義務付ける。
6. 空気抵抗を減じるための付加的な衣類または物は禁じる。ロードおよびマウンテンバイクレース中に袖付きのジャージと短いパンツに加えて衣類と上衣を着用することは、気象条件のみにより必要なものと認められる。この場合、競技者を悪天候から護るといふ明白な観点のみにより、服装の種類と生地は正当化される。この判断はレース・コミセラーに任せられる。
7. 衣服上の広告表記は以下による。また、競技者の随行者に関しての広告表記は衣服上のものに限り、競技者に認められたものと同一とする。
- (3) ナショナル・ジャージ
着用義務のある競技大会は以下のとおり

- ・オリンピック競技大会
 - ・世界選手権大会
 - ・ナショナル チーム員として参加するワールド・トラック・カップ ワールド・シクロクロス・カップの競技大会およびその他の競技大会
 - ・大陸競技大会 大陸選手権大会 ナショナル・ジャージには下記の広告の表記が認められる
 - ジャージの前側に最大64cm²のロゴ2つ
 - 肩および袖を含む範囲 - 最大高5cmで1行
 - ジャージの両側部 - 最大幅9cmの縦帯の範囲内
 - パンツの両側部 - 最大幅9cmの縦帯の範囲内
 - 製造者のロゴ(25cm²)は衣類1点につき1箇所(パンツは各脚に1箇所)
- 広告は競技者ごと、競技者のカテゴリ、種目毎に異なってよい。
ジャージおよびパンツのデザインは、競技者の1カテゴリごとに異なってよい。
マウンテンバイク・ダウンヒル競技で着用されるレギンズにおける広告物およびパンツに対する広告制限を条件としない。

第4章 ゼッケン(ナンバー・カード)

第12条 (ゼッケン(ナンバー・カード))

5. 外形寸法、文字寸法等は以下のとおりとする。

	ボディナンバー	フレームプレート	アームバンド	自転車プレート(BMX)	自転車プレート(MTB)
高さ	18 cm	9 cm	11 cm	20 cm	18 cm
幅	16 cm	13 cm	12 cm	25 cm	18 cm
字高	10 cm	6 cm	7 cm	10 cm	8 cm
字幅	1.5 cm	0.8 cm	0.8 cm	1.5 cm	1.5 cm
広告	下部に高さ6cmまで	上部に11x2cmの長方形	下部に高さ2cmまで	下部に高さ6cmまで	上部および下部に4cm高さで

第13条 (ゼッケン(ナンバー・カード)の枚数)

ゼッケン(ナンバー・カード)の枚数は以下のとおり。

この表にない種目に対しては、種目の特性に応じて枚数を決定する。

種目	ボディナンバー	フレームナンバー	アームバンド	自転車プレート
ロード	ワンデーレース (クリテリウム個人ロードレースを含む)	2	1	
	ステージレース	2	1	
	タイムトライアル	1		
シクロクロス		1		2
トラック	スプリント	2		
	個人追抜競走	1		
	団体追抜競走	1		
	1kmタイムトライアル	1		
	500mタイムトライアル	1		
	ポイントレース	2		
	ケイリン	2		
	チームスプリント	1		
	マディソン	2		
	スクラッチ	2		
	速度競走	2		
	エリミネーション	2		
BMX		1		1
マウンテンバイク	OX-MX-PP-SR-SC-MD	2		1
	TR-TT-DH-4X-DL-DS	1		1

第5章 自転車およびオートバイ

第16条 (トラック・レーサーおよびロード・レーサー)

2. 技術革新

- (1) 競技中に競技者または他のライセンス所有者により使用され、着せられ、保持されるいかなる物(自転車、自転車に取り付ける装備品、付属品、ヘルメット、衣類、通信手段、等)に関するいかなる新技術もUCI執行委員会の認可を受けるまでは使用できない。認可申請はすべての必要書類を添えて6月30日までに提出しなければならない。認可された場合、新技術は翌年の1月1日より使用することができる。ただし日本国内の競技大会における使用許可時期については本連盟広報誌または加盟団体あての通知による。ただしこの条項はマウンテンバイクには適用しない。

認可は、その新技術がスポーツの観点から受け入れられるか否かという点のみにより判断される。

3. 自転車

(2) 技術的詳細

- ⑧自転車の車輪はタイヤも含めて最大70cmから最小55cmのあらゆる寸法を採用できるシクロ・クロス用自転車ではタイヤの最大幅は35mmとし、いかなる形式でもスパイクやスタッドを組み込んではならない。
第16条2.(1),(2)に反しない場合、2002年より集団スタートのロード・レースとシクロクロス競技においてはUCIの事前承認を得た車輪のみ使用できる。車輪は最少12本のスポークを持つ。それらの断面寸法が10mmを超えない限り、スポークは丸、扁平もしくは楕円であってよい。承認を得るためにはUCI認可の研究所においてUCIが規定した破壊検査に合格しなければならない。試験結果は、車輪の通常使用時の衝撃による結果と矛盾しない破壊特性が得られなければならない。次の基準は満たされなければならない:

(以下省略)

第6章 自転車競技場

第21条 (自転車競技場)

3. UCIの公認を受けない場合でも、本連盟の公認競技大会を実施するためには本連盟の公認を受けなければならない。
(3) 測定には本連盟競技運営委員会から指名された2名の査察員が立ち会う。

第8章 競技種目

第30条 (マウンテンバイク種目)

3. 本連盟または加盟団体の主催する競技大会で実施するマウンテンバイクの競技種目は、前項1~2に掲げる種目の他、次の種目中から採用する。
クロスカンントリー・サーキット(CC)
クロスカンントリー・地点間(PP)
クロスカンントリー・ショートサーキット(SC)
ヒルクライム(HC)
デュアル・スラローム(DS)
フォア・クロス(4X)
ステージ・レース(SR)

第32条 (室内自転車競技種目)

本連盟または加盟団体の主催する競技大会で実施する室内自転車競技の種目は、次の中から準用する。

第9章 制裁

第36条 (制裁の内容)

2. 罰金

- ①国際競技における罰金はUCI規則に基づき付表3による国内競技大会における罰金はこれに準じ、大会特別規則による。
②ペナルティが以下の表に掲げられていない場合でも、重大な違反を犯したライセンス保持者は、コミセールにより直ちに失格とされ得る。

- ③レース中の出来事が自転車競技あるいはUCIのイメージ、世評、利益を損なうものである場合、ライセンス保持者は懲戒委員会に召喚され、UCI規則条項12.1.005.2によりペナルティを科される。

第37条 (罰則表)

ロード・レース等の罰則はペナルティ表に定める。ただし国内競技については本連盟が表中の「その他の競技」の欄に規定するより低額の罰金を設定できる。

第10章 異議の申立て

第38条 (異議申立ての方法)

6. 【削除】

第11章 競技大会の開催および準備

第41条 (競技日程の申請と作成の期日)

2. 競技日程は毎年、歴年あるいは競技シーズンに合わせて作成する。加盟団体および国内の競技大会主催者は、次年度に開催する競技大会について11月30日までに本連盟に申請する。ただしシクロ・クロスについては当該年度の5月31日までに申請する。
本連盟は国内競技日程を12月末日までに作成する。
ただし原則としてロード・レースの国内選手権大会の日として第26週末、シクロクロスの国内選手権大会の日として第2日曜、マウンテンバイクの国内選手権大会の日として第29週末を留保する。
(国際競技大会の開催申請)
3. 競技大会主催者は本連盟に毎年5月31日までに世界あるいは大陸競技日程に登録されるべき競技大会を申請する。
(1) 本連盟はUCIと当該大陸連盟に前年の6月15日までに申請書を提出するシクロ・クロスについてはこの期限を当該シーズン前の12月15日とする。

第12章 大会要項と参加申込み

第52条 (大会要項と参加申込み)

1. 主催者は大会要項のほかその大会のプログラムまたはテクニカル・ガイドを作成しなければならない。プログラムまたはテクニカル・ガイドは競技運営について少なくとも下記の事項を示さなければならない。
(8) コミセール・パネル等の構成。
競技時程表の小変更を除いて競技の諸条件は全当事者の合意を得た場合あるいはUCI規則に従って追加しなければならない場合を除き、参加申込み受付開始以降変更できない。
主催者は必要であれば競技大会のための時程表に以下の状況を条件として大幅な変更を加えることができる:
①少なくとも15日以前にチームあるいは競技者とチーフ・コミセールおよびコミセール・パネルに通知すること;
②時程表の変更起因する回収不能の経費をチームあるいは競技者、コミセール、国内連盟およびUCIに償還しなければならない。
5. チームまたは競技者は所属国内連盟の許可がなくても大陸競技日程・世界競技日程の競技大会に参加できるかどうかはその国内連盟が決定する。
(1) ロードおよびマウンテンバイク・レースにおいてはチームまたは競技者は所属する連盟の書面による許可を提出しない場合は競技のスタートを許可されない(チームおよび各競技者が主催者と同じ国内連盟に属する場合を除く)この許可書には有効な日付と関係する競技者名が記されていない。
8. ロードレースのチーム監督会議はスタートの2時間以上前に開催されなければならない。
9. ロードレースのライセンス・コントロールにおいて主催者は補欠を含む申込者リストを事前に用意する。チーム監督またはその代理人は監督会議前の定められた時間帯に出走競技者名を確認しなければならない。コミセールは出走競技者のライセンスを確認する。これ以降の出走競技者の変更は認められない。

第13章 総務および競技担当役員の任務

第54条 (競技担当役員)

競技担当役員はチーフ・コミセール、コミセール、アシスタント・コミセールにより構成する。必要によりアピール・パネルを置くことができる。
国際競技大会においてはアピール・パネルを置かない。
すべての競技役員は目撃したいかなる違反をも、UCIまたはNFのどちらが適当であるかによっていずれかに報告する義務がある。

第57条 (コミセール・パネル)

6. ロードおよびマウンテンバイク競技大会において、コミセール・パネルは第52条5(1)にて要求される国内連盟の参加許可を調べなければならない。

第59条 (トラック・レース競技担当役員の任務)

3. コミセール・パネル・メンバー。
チーフ・コミセールを補佐しその任務を分担する。他の任務との兼任を妨げない。
- ① チーフ・コミセールはコミセール・パネルのうち1名を判定員に指名しなければならない。チーフ・コミセールはこの任務を自身で行うことはできない。判定員はスプリント、ケイリン、ポイント・レース、マディソン、エリミネーションおよび速度競走において配置することを義務付ける。

第14章 トラック・レース規則

第65条 (200mタイム・トライアル)

5 事故が起きた場合、再スタートが与えられる。再スタートは1回のみ認められる。

第66条 (スプリント)

スプリントは2名から4名の競技者間で2ないし3周で行うレースである。

2. 200mタイム・トライアルによりスプリント・トーナメントに進出する競技者を決定するスプリント対戦に進出する人数は24名、18名、16名、12名を選ぶ方法がある。(付表1参照)
この選出のための200mタイム・トライアルのスタート順は、世界選手権大会においては前年の上位8名が成績の逆順で最後に、その他の競技者は抽選による。

8. トラックの内側に位置する競技者は、追い越されないと限り、トラック反対側の中央線に達するまで先行しなければならない。各レースにおいて2回までのスタンドスタイルが許される。スタンドスタイルは最長30秒までとし、これを過ぎた場合、先行競技者はスタートにより競技を続けるよう指示される。彼が従わなかった場合、スタートは競技を中止し、他の競技者にその対戦の勝利を宣言する3名または4名による競技の場合、降格競技者を除外して、ただちに2名または3名により再発走とする。

第67条(インディヴィデュアル・パーシュート/個人追抜競走)

3. 競技方法は以下の4通りを標準とする。
- ① 予選において1/4決勝に進出する8名を選抜する。
 - ② 予選において第1回戦に進出する8名を選抜する。
 - ③ 予選において準決勝に進出する4名を選抜する。
 - ④ 予選において決勝に進出する2名と3-4位決定戦に進出する2名を選抜する。
2004年8月26日以降は、1をもっとも標準的な方法とする。
22. 予選中の事故
- (1) 最初の半周中の事故:
最初の半周中に事故があった場合、競走は中止され、直ちに再スタートとする。
 - (2) 最初の半周後の事故:
最初の半周を過ぎて事故があった場合は競走は中止しない。事故に遭った競技者は、予選ラウンドの最後に再スタートが認められる(単独で計時、あるいは同様に事故に遭った競技者がある場合はその者と対戦する)競技者は2回のみスタートを認められる。
23. 1/4決勝と準決勝、第1回戦と順位決定戦中の事故
- (2) 最初の半周回後の事故:
 - ① 第1回戦(3項②):
最初の半周を過ぎてからは競走を中止しない。認められる/認められない事

故に遭った競技者は1/4決勝、準決勝、第1回戦の最後に単独での計時に再度競技することが認められる。彼の相手競技者は競技を続ける。

第68条 (チーム・パーシュート/団体追抜競走)

5. 競技方法は以下の4通りを標準とする。
- ① 予選において1/4決勝に進出する8チームを選抜する。
 - ② 予選において第1回戦に進出する8チームを選抜する。
 - ③ 予選において準決勝に進出する4チームを選抜する。
 - ④ 予選において決勝に進出する2チームを選抜する。
 - ⑤ 予選において決勝/順位決定戦に進出する4チームを選抜する。
7. 予選後の組合せは以下による。
- (4) 本条5項により、予選により2チームを選抜する場合、決勝において、予選のタイムにより次のように組合せる。
1位のタイム 対 2位のタイム
- (5) 本条5項⑤により、予選により4チームを選抜する場合、予選3-4位のタイムのチームにより3-4位決定戦を、予選1-2位のタイムのチームにより1-2位決定戦を行う。
20. 予選の場合
- (1) 最初の半周中にいずれかのチームが事故に遭った場合:
直ちにそのレースを再スタートとする。
 - (2) 最初の半周以降にチームが事故に遭った場合:
事故にひとりの競技者のみが関与した場合、そのチームは3名で競技を続けることも、停止することもできる。このチームが停止することを選択した場合、事故地点から1周以内に停止しない場合は失格となる。この際、他方のチームは競技を続けるしなければならない。
1名の競技者が事故に遭い、停止したチームは、予選ラウンドの最後に同様の事故に遭ったチームがあれば、1つしよに再スタートしなければならない。
事故後の再走行中に事故に遭ったチームは、3人で競技を続けなければならない。予選ラウンドにおいて、事故を原因とする再スタートは1回のみ認められる。
- 第69条 (1kmおよび500mタイム・トライアル)
9. 不正スタートの場合、競技者は直ちに再スタートしなければならない。事故が起きた場合は、その競技者はおおよそ15分の後に再スタートをすることができる。競技者は合計2回までのスタートが認められる。
- 第70条 (ポイント・レース)
4. 最終成績は得点が優劣がない場合は、最終スプリントの順位により決定する。
12. 認められる事故が起きた場合、その競技者に1300mに近い周回数(333.33mのトラックでは4周、400mのトラックでは3周、500mのトラックでは3周)までのニュートラリゼーションを与える。走路への復帰にあたっては、その競技者が事故前に占めていた位置から再開する。
- 第72条 (チーム・スプリント)
2. 世界選手権大会においては、次のように行う。ただし2004年8月26日以降は前記第1項の方式とする。
- 第83条 (6日間レース)
5. マディソン/チェイス・レース(ハンディキャップ競技を除く)のスタート時に、電光表示板のすべてのチームの表示を'0'とする。マディソン/チェイス・レース終了後、電光表示板にその時点での総合順位を表示する。
競技最終日には最後のマディソン/チェイス・レースが行われている間、その時点での総合順位を常に電光表示板に表示する。
6. **【削除】**
7. 機材故障が起り、コミセールが正当と認めた場合、あるいは落車した場合、そのチームは1.5km(1.5kmに近い周回数)までのニュートラリゼーションを与えられる。ニュートラリゼーションの終了時に、チームの1名は周回減算によるペナルティがない場合は、事故が起きた時に占めていた状態の100%から競技を再開する。
9. 時間制のマディソン/チェイス・レースの場合、1名になってしまったチームは、その競技が終了する10周前に走路から離れなければならない。
12. 競技医師は、最長36時間までのニュートラリゼーションを決定することができる。

きるこれを過ぎる場合はその競技者は除外される。

16. 全チームが同時に競技できない場合、予選を行うこの時、下記の方法を適用する。

【…中略…】

デルニー追走レースにおいて獲得したラップは総合順位に算入しない。

17. 6日間レース最後のマディソン/チェイス競技以外において、100点毎に1周のボーナスをチームに与える タイム・トライアルのような特別競技についてもボーナス・ラップを与えることができる。ただしすべてのチームに参加機会が与えられる競技に限る。

第15章 ロード・レース規則

第84条 (ロード・レース)

7. (フィニッシュとタイム・キーパー)

フィニッシュは前輪前端がフィニッシュ・ラインの手前側の縁に達した時とする。写真判定は最終的判定とできる ロード・タイム・トライアルにおいては、前輪タイヤの接地点とテープ・スイッチの接触を以ってフィニッシュの基準とすることができる。

第85条 (ワンデー・ロード・レース)

30. 世界選手権大会およびオリンピック大会、日本国内の公認競技大会においてあらゆる技術的手段を用いても上位3位までの内一つが判定不能であった場合、これらの競技者はそれぞれ当該の順位を与えられる。次の順位は与えられず、3位までが同着の場合は3者を1位とする。

第86条 (チーム・タイム・トライアル)

4. 各チームの競技者は、予定スタート時刻の少なくとも15分前に、署名チェックポイントに本人自らが自転車の点検を受け、出走する装備で来なければならない。いかなるチームもすべての競技者がそろってスタートすることはできない。
スタートが遅れたチームの記録は、予定されていたスタート時刻から計時するものとする。

8. 【削除】

第87条 (インディヴィデュアル(個人)タイム・トライアル・ロード・レース)

5. 各競技者は各自のスタート予定時刻の15分前までに、署名チェックポイントに本人自らが自転車の点検を受け、出走する装備で来なければならない。
6. 競技者は静止した姿勢からスタートしなければならない。競技者はホルダーにより支えられ、押されることなく放される。同じホルダーが各競技者のための仕事を務めなければならない。
スタート・ラインにおいてテープ・スイッチを用いて計時する場合、前輪タイヤの接地点とテープ・スイッチの距離は10cmでなければならない。
スタートは原則として、出発台から行う。
8. スタート・タイムは前輪タイヤとスタート・ライン上の電子計時用テープ・スイッチの接触をもって決定する。競技者が カウントダウンが0になるわずかな前あるいはその後の5秒間内にスタートした場合、テープ・スイッチで起動したタイムを使用する。競技者がこの5秒を過ぎてからスタートした場合、あるいは電子計時装置に問題が生じた場合、該当競技者のタイムは、カウントダウン後に計時開始する手動計時による。
11. 世界選手権大会とオリンピック競技大会において、タイムは1/100秒まで計時し伝達する。

第88条 (ステージ・レース)

2. タイム・キーパーが記録したタイムを、ボーナスとペナルティを加減して総合時間順位に算入する。ボーナスは個人総合順位にのみ算入する。
タイム・ペナルティは個人総合順位に対して科す。それら違反行為の重大性に応じ、コミセール・パネルが決定した場合は、ステージ個人順位にも適用する。コミセール・パネルの判断において、競技者により犯された違反行為が、彼にチームの総合時間順位に利益を与えた場合、そのチームにも30秒のタイム・ペナルティを科す。
5. 各種順位の首位者は、各順位に対応するジャージを身につけるよう要求される。
一人の競技者が1つ以上の順位において首位となった場合、首位者を示

すジャージの着用優先順位は下記のとおりとする:

- 1) 個人総合時間順位;
- 2) 個人総合ポイント順位;
- 3) 個人総合山岳賞順位;
- 4) その他(若年競技者、複合、etc.);これらのその他順位のジャージの着用優先順位は主催者により決められる。

主催者は相当する順位に従って他の競技者を選んでその順位首位者に着用されないジャージを着用するよう要求することができる。

しかし、条項1.3.062, 1.3.063 あるいは 1.3.068の規定によりこの競技者が世界選手権者あるいは国内選手権者のジャージ着用を要求される場合は、そのジャージを着用しなければならない。

同様に、団体順位において首位のチームの競技者は対応する印を付ける。

8. これらボーナスは、個人総合時間順位にのみ算入する。個人およびチーム・タイム・トライアルにおいてはボーナスを与えない。

第16章 シクロ・クロス規則

第91条 (シクロ・クロス)

10. スタート区間は長さ300m以上、幅6m以上でなければならない。スタート区間は可能な限り直線とし、下り勾配があってはならない。また、最初のカーブは90度以下でなければならない。スタートの直線区間の後に最初にコース幅が狭くなる地点あるいは最初の障害物は、険しいものでなく、競技者全員が容易に通過できるようなものでなければならない。
15. コースには、競技者が自転車から降りることを余儀なくされる障害物を最多4個含んでいなければならない。コースには、人工的障害物を1箇所含むことができる。この人工的障害物は、4m間隔の2枚の木の厚板からなる。それらは全高にわたり隙間がなく、金属性のものであってはならない。障害物の高さは40cm、幅はコース幅と同じとする。女子とジュニアの競技においては、人工的障害物を迂回するために使われる並行コースを推奨する。下り部分に階段を設定してはならない。
19. 1日に5試合を越える競技を同一のコースで行うことはできない。主催者はサーキットが傷まないようにするため、一般の立ち入りを防ぐ手だてをしなければならない。競技が開始してからはその競技に出場している競技者のみがサーキットを使用できる。
25. 競技者は指定されたピット内の同一の場所でのみ自転車または車輪の交換をすることができる。競技者はどのピットにおいても車輪あるいは自転車を交換することができる。
競技者は自転車または車輪の交換のためにのみピット・レーンを使用することができる。器材はチーム・スタンドに横付けにしてのみ交換できる。この目的のために、自転車から右側、左側の両側に降りることが可能でなければならない。チーム・スタンドの反対側には人を配置してはならない。
器材ピットの終端まで達した競技者は、自転車または車輪の交換するためには、次の器材ピットまでそのまま行かななければならない。黄色い旗で示された区間内で競技レーンを走行している競技者が突然ピットに入る必要ができた場合、ピット・レーンに入るためにコースを逆行する必要がある。
ホイールおよび自転車はピット内の同一の場所において交換する。競技者間でホイールまたは自転車を交換することはできない。

第17章 マウンテンバイク規則

第92条 (マウンテンバイク規則)

1. 総則
- (1) 競技のカテゴリ
 - ① 年齢別のカテゴリはその年の12月31日における競技者の年齢により決定する。
 - ② UCIにおける国際競技大会の参加最少年齢は17才である。ただし大会として特別に17才未満の年齢の競者に限った競技を行うことは可能である。
 - (2) 競技会場・施設
 - ② スタート&フィニッシュ
1. 集団でスタートする競技におけるスタート地点は;

- ・必ずスタート・ラインより最低30m手前から最小幅員8m,
- ・必ずスタート・ラインより最低100m先まで最小幅員6m,
- ・スタート・ライン前後は平坦または登り坂とし最低750m通過後もしくは3分後には狭くできる.

3. フィニッシュ・ラインは20cm幅の白地に4cm幅の黒線をもって表示する.

4. フィニッシュの判定にはテープ・スイッチ 光電素子等を使用できる.

(3) マウンテンバイク競技役員の任務

①TD(テクニカル・デレガイト/技術代表)

1. 国際競技カテゴリA B C DHc D1においてはUCIマウンテンバイク委員会が任命し カテゴリD2およびEにおいては主催国連盟が任命する.

②コミセール・パネル(カレッジ・オブ・コミセール)

1. チーフ・コミセール:

1.1 国際カテゴリA B C, DHc D1, D2, EHc, E1, E2とマスターズ選手権大会においては UCIマウンテンバイク委員会により任命 カテゴリD2およびE大会は主催国連盟が任命する これらは国際A級マウンテンバイク・コミセールでなければならない.

1.2 チーフ・コミセールは競技すべてについての責任者である スタート準備 オフィシャル コミセール リザルト管理を総括する レース・ディレクターと共に各事項を保証し処理する それぞれのペナルティに対してオフィシャルと協議する.

3. セクレタリ・コミセール

3.1 国際カテゴリA大会においては UCIマウンテンバイク委員会により任命 カテゴリC大会においては各大陸連合が任命 カテゴリB D Eおよびマスターズ選手権大会は主催国連盟が任命する これらは少なくともナショナル・マウンテンバイク・コミセールであり 競技参加者の 氏名, 年齢 カテゴリ 国名 ライセンスの効力 ライセンス・ナンバー レース・ナンバーを記録する.

4. フィニッシュ・コミセール

4.1 国際カテゴリA大会においては UCIマウンテンバイク委員会により任命 カテゴリC大会においては各大陸連合が任命 カテゴリB D Eおよびマスターズ選手権大会は主催国連盟が任命する これらは少なくともナショナル・マウンテンバイク・コミセールでありレース終了時に着順を決定する.

5. スタート・コミセール

5.1. 国際カテゴリA大会においては UCIマウンテンバイク委員会により任命 カテゴリC大会においては各大陸連合が任命 カテゴリB D Eおよびマスターズ選手権大会は主催国連盟が任命する 競技者をチェックしスタートのインストラクションを行いスタートを遂行する これらは少なくともナショナル・マウンテンバイク・コミセールであること.

(4) 【削除・第4章第12条/第13条に統合】

(5) 国際競技日程の要件と手続き

①国際マウンテンバイク競技の分類は下記の通り:

4. カテゴリCN: 国内選手権大会

国内選手権大会開催のために保護された日程は UCIマウンテンバイク委員会にて確定後にUCI理事会に提案される XC DHの国内選手権大会は、第29週末に行う.

(6) マウンテンバイク競技の分類

①クロスカントリーレース

4. 【削除】

④【削除】

(8) 競技機材

③ 前後輪とも29インチ以下の車輪を使用しなければならない.

2. クロス・カントリー競技総則

(5) 最低トレーニング時間

② エリート・クラスの競技者専用のトレーニング時間を最低2時間設けなければならないレースの前日と2日前 時間帯は 午前10時から午後3時までの間とする.

3. ダウンヒル競技総則

(1) レース・フォーマット

①独走形式とする 次のいずれかの方法をとる:

1. ワールドカップのようにクオリフィケーション(予選)セミ・ファイナル(準決勝)によりファイナル(決勝)に至るシステム.

2. または 世界選手権大会のようにシーディング・ランとファイナル(決勝)の独走タイムにより勝負を決定するシステム.
タイムは1/1000秒まで計時する.

4. フォア・クロス競技総則

(1) レース形態

③ 予選ラウンドはコース上での各競技者の計時走行として行う スタートリストを作成しすべての競技者はこれに従わなければならない エントリーした競技者が予め決められたとおりスタートしなかった場合 予選通過とみなされない 競技者はスタート・コミセールに与えられた順にスタートしなければならない 予選ラウンド後 男子においては64競技者 女子においては16競技者がメイン・レースに参加資格を得る.

第18章 室内自転車競技規則

第93条 (サイクル・サッカー規則)

【2004年版UCI規則準拠】

- 本文省略 -

第94条 (サイクルフィギュア規則)

第21項 実施採点

21.3 わずかな姿勢の乱れに対する減点1a(- 0.2 x)

この減点は一つの課題における同じミスには一度しか課せられない.

a) 腕や指先がしっかり伸びていない

b) 脚と足首がしっかり伸びていない

c) 無駄な腕の動きがある

d) 上体の姿勢が悪いとき

e) 不安定な走行

f) スピンのスポットが50cmの枠を越えた場合

g) 自転車の動きの後、ステップの補正 最後の演技グループにおけるホッピング

21.4 姿勢の大きな乱れに対する減点1b(- 0.5 ~)

この減点は一つの課題における同じミスには一度しか課せられない.

a) ペア競技における同時性の乱れ

b) スムーズさに欠けたベダリング

c) エイトサークルを描いたときに二つのサークルの大きさが異なった場合.

d) エイトサークルを描いたときに二つのサークルが正対していない場合.

e) 自転車の進行方向に対する身体の方向が悪いとき.

f) サークルとエイトサークルの中心がライディングエリアの中心からずれたとき.

21.5 技術的な減点1c(- 0.5 ~)

この減点は一つの課題における同じミスには一度しか課せられない.

a) ライディングエリアからでた場合

b) サークルを描くときにモデルサークルの中に入った場合.

c) エイトサークルを描くときにインナーサークルを通過しなかったとき.

21.6 技術的な減点1d(- 0.5 ~)

この減点は同じ課題における同じミスには一度しか課せられない.

a) 演技終了時 あるいはタイムアウトの時に正しく自転車から降りない場合

21.7 技術的な減点2(1.0 /)

この減点はそのつど減点される.

a) フリーハンド演技実施中にハンドルやフレーム あるいはパートナーに片手または両手で触れて再び走行した場合.

b) ウィリー系と移行系の演技中に前輪が一旦床に触れて再び上げて走行した場合.

c) 足が床に触れた場合(1秒以内)

d) ターンジャンプ系とスクワット系の演技中に脚や足がフレームやハンドル あるいはサドルに触れた場合.

e) ターンジャンプの終了時に足がペダルを捕える前にフレームに触れた

場合。

f) パートナーにもたれかかった場合。

g) 参加者が最後に立っているが自転車は床に倒れている(最後の演技グループ)。

218 技術的な減点3 (3.0 ○)

この減点は競技者および過失の種類ごとにそのつど減点される。

a) 落車したり床に立った場合。

b) 自転車とパートナー以外のものにしがみついた場合。

c) ベア競技の二台から一台に変更するときに競技者の関係者がライディングエリアの中に入った場合。

d) ベア競技の二台から一台に変更した時に、一台の自転車をライディングエリアに残した場合。

e) 参加者は最後に立っていない(最後の演技グループ)。

第19章 BMX競技規則

第95条 (BMX規則)

1. 競技施設

(7) 競技トラックのマーキング

競技トラックの境界を交差区間も含めて明確にマーキングしなければならない。

3. 競技総則

(2) クラス

2. UCIおよびまたはJCF公認のBMXの競技クラスは下記のものとする:

b. クルーザー・クラス(クルーザー 男子/女子)

チャンピオンシップレベル

エリート・クルーザー - 19歳以上

ジュニア・クルーザー - 17&18歳

(2クラス)

チャレンジレベル

12才以下 13&14 15&16 17-20歳

30~34 35~39 40~44 45歳以上

(8クラス)

合計: 36クラス(ガールズ合同クラスの場合は31クラス)

(以下省略)

(7) スタート

1. BMX レースのスタートは、下記の手順のいずれかを用いて行う:

a. 電子制御式のスタート・ゲートを使用する場合にはスタートのかけ声は以下のものとする:

1) 「アテンション」または「セツ・ゼム・アップ」(いずれかを選択)スタートはスタートが安全に進行する条件を満たすまでステージ1のかけ声を差し控え条件が整ってからボイス・ボックス・スタート・システムを起動するボイス・ボックスに録音された命令は以下のとおり:

2) 「ライダーズ・レディ」

3) 「ウォッチ・ザ・ライト」または「ウォッチ・ザ・ゲート」(いずれかを選択)ステージ1の間のみスタートによりスタートは制止できるスタートはかけ声によりステージ1を再開する。

2. ボイス・ボックス式スタート・システムはスタートの声の代わりとなる設備である。

a. ボイス・ボックスに録音される指令は以下のものとする:電子制御式スタート・ゲートをボイス・ボックス式スタート・システムと共に使用するときボイス・ボックスに録音した命令は以下のとおりとする:

1) 「アテンション」または「セツ・ゼム・アップ」(いずれかを選択)スタートはスタートが安全に進行する条件を満たすまでステージ1のかけ声を差し控え条件が整ってからボイス・ボックス・スタート・システムを起動するボイス・ボックスに録音された命令は以下のとおり:

2) 「ライダーズ・レディ」

3) 「ウォッチ・ザ・ライト」または「ウォッチ・ザ・ゲート」(いずれかを選択)ステージ1の間のみスタートによりスタートは制止できるスタートはかけ声によりステージ1を再開する。

b. ボイス・ボックス式スタート・システムの基本的必要条件は以下のとおり:

1) 録音された指令は明瞭でゲート上のすべての競技者に聞こえるものでなければならない。

2) ボイス・ボックスによるスタート・システムはライトおよびゲート制御装置と完全に一体化して作動するものでなければならない。

3) ボイス・ボックスによるスタート・システムを手動制御により中断できるのは「ライダーズ・レディ」指令の終了時とする。

4) 「ウォッチ・ザ・ライト」または「ウォッチ・ザ・ゲート」(いずれかを選択)の自動指令によりシステムはやり直しができない動作に入りこの時点で停止することはできない。

5) 「ライト」または「ゲート」(いずれかを選択)のかけ声の時点でボイス・ボックスによるスタート・システムは自動的にライト・システムならびにゲートの落下手順を連続して作動させる。

4. 競技用装備

(3) 自転車

7. クランク、ペダルおよびトランスミッション

c. ペダルはクランク・アームに確実に取り付けられまたペダル軸に沿ったペダル本体の側方運動を排除するように調整されていなければならないペダル軸は競技の苛酷さに耐えるのに十分な強度のものでなければならないペダル・ケージ上の歯部は競技者の靴を効果的にグリップするように十分に突起しているものとするが安全を脅かすほど鋭利なものであってはならないトゥ・クリップおよびストラップは許可されないただしペダル・クリートのインター・ロッキング・システムは許可されるインター・ロッキング・ペダル・クリート・システム使用時には競技大会における役員からの要請に応じてペダルから着脱可能であることを証明することができなければならない。

第20章 トライアル競技規則

第96条 (トライアル規則)

2. 競技規則

(2) セクション(競技区間)

②各競技における最少セクション数:

エリート: 16 セクション

ジュニア: 16 セクション

女子: 14 セクション

カデット: 14 セクション

ミニムズ: 14 セクション

ベンジャミンズ: 14 セクション

プーシズ: 14 セクション

⑬セクションの選定にあたり以下のジャンプ高さを超えないようにすること(必要があれば国際審判団は主催者にこれを要求できる)

20インチ: 白: 0.60 m

青: 0.80 m

緑: 1.00 m

黒: 1.20 m

赤: 1.40 m

黄: 1.80 m

26インチ: 赤: 1.00 m

黄: 1.40 m

女子: 桃: 1.00 m

(3) サーキット

④セクションは審判の同意があれば2回のラウンドの間にレース・ディレクターにより変更を加え得る。

(4) スタートと乗車の規則

⑥【削除】

3. 年齢と競技カテゴリ

(1) トライアル・カテゴリ

②プーサンズ: 9歳と10歳

白コース: 20"のみ

ベンジャミンズ:	11歳と12歳	青コース; 20" & 26"
ミニムズ:	13歳から14歳	緑コース; 20" & 26"
カデット:	15歳と16歳	黒コース; 20" & 26"
ジュニア:	16歳から18歳	赤コース; 20" & 26"
エリート:	19歳およびそれ以上	黄コース; 20" & 26"

セクション内の矢印には、一例として人工的セクションをわかり易くするために番号をつけることができる。

(2) 【削除】

①【削除】

②【削除】

4. 装備

(2) 26インチ自転車(マウンテンバイク)

- ① 最少6段の異なる変則比の可動する変速機を持つ、一般市販の26インチ・マウンテンバイクが使用できる。

第21章 随行車両

第97条 (随行車両)

- 前項における10のナショナル・チーム・カーの配列順序は下記により抽選で決定する。
- 4各グループ内での順序は最新刊のUCI国別ランキングにより決める。数カ国をグループ化した車両においては、もっともランキング上位の国を基準とする。
チーム・カーは全高160cm以下とし、単座席は使用できない。

第23章 医事検査

第99条 (医事検査)

- 薬物検査の運営
(検査用紙)
 - 検査がその目的に沿って行われたことはUCI規則に準じる検査用紙により証明される。各競技者に対しそれぞれ別の検査用紙を作成する。
 - この用紙は複写式の3枚構成になっており、1枚目が原本で2枚(ノーカーボン式)複写である。2枚目には競技者に関する情報は複写されないようになっている。
 - ①原本はJCF用
 - ②複写の1枚目は競技者に渡される
 - ③複写の2枚目は試験所用
- 制裁
- 一般事項
 - ③失格
- ステージ・レース中に本条8.(2)①に定めるドーピング違反が行われ、この件の処罰として警告が行われた場合には自動的に失格としない。当該競技者が失格とならない場合には、個人時間順位の最終タイムに当該競技者が陽性とみなされたステージにおいて記録したタイムの1%を加算する。その同じステージで得たポイントを最終成績から減算する。最終順位はそれに応じて訂正しなければならない。当該競技者はそのステージで得たすべての賞金を没収される。

第25章 選手権者のジャージ

第112条 (日本選手権者のジャージ)

- 日本選手権者のジャージの色およびレイアウトを含んだデザインの権利は本連盟が所有する。このジャージは本連盟の許可なく製造することはできない。このデザインは、いかなることがあっても修正することはできない。

第113条 (日本選手権者のジャージの着用)

- 日本選手権者はその選手権を保持する間、同一種目に出場する際は、このジャージを着用しなければならない。他の種目において着用することはできない。
個人ロードレース選手権者はワンデー・ロードタイムトライアルと世界選手権を除く全てのロードレースで選手権者ジャージを着用する。
個人ロードタイムトライアルの選手権者は世界選手権大会以外のワンデー・個人ロードタイムトライアルにおいて選手権者ジャージを着用し、他のレースでは着用しない。
トラック・MTB・BMXトライアル、室内自転車競技選手権者はタイトルを獲得した種目のみで着用し、他の種目では着用できない。

付表1: スプリントの組合せ表

予選により16名を選出する場合(追加)

付表2-1: ロード・レースの区分(クラス)

2. 大陸競技日程

競技大会の種類	参加方法
Class 3 (1.3 + 2.3) (*)	TT(トレード・チーム)/I, TT/IIとTT/IIIおよび要請により混成チーム および随意に - ナショナル・チーム - その他の構成のチーム(ヨーロッパ競技日程を除く)
Class 5 (1.5 + 2.5) (*)	主催者の国のTT/Is (トップ・クラブを除く), およびTT/II, TT/III および要請により混成チームとその他の構成のチーム
Class 6	TT/IIIおよび要請によりTT/III所属競技者を含む混成チーム、その他の構成のチーム

4. 使用呼称の定義

- ワールドカップ 主要ツアー オール・クラスおよびクラス1から6のレース。
- その他のチーム ナショナル・チーム(同一国籍の競技者で構成する) 地域チーム(同一連盟のライセンスを所持する競技者で構成する)・クラブ・その他のチームで国内連盟が認可したTTに所属しないエリート競技者およびTT/IIIに所属しないU23競技者。
国内連盟はその所属するU23競技者の参加に関し制限を加えることができる。
1. 例外: ナショナル・チームは下記の条件の下に、そのTTが参加する場合であってもTTに属する競技者を含むことができる。
- そのチームはナショナル・ジャージを着用すること
- 各競技者は所属のTTから書面での許可を得ること
- 女子エリート・ワールドカップ・レースとクラス7から11までの競技大会
- その他のチーム ナショナル・チーム(同一国籍の競技者で構成する) 地域チーム(同一連盟のライセンスを所持する競技者で構成する)・クラブ・その他のチームで国内連盟が認可したもの。
(以下省略)。

付表2-2: トラック・レースの区分(クラス)

トラック・レース競技大会は以下のクラス分けと参加基準にしたがって競技日程に掲載される。

1. 世界競技日程

競技大会の種類	参加方法
オリンピック競技大会	- オリンピック競技大会規則による
世界選手権大会	- 世界選手権大会規則による
ワールドカップ大会	- UCI規則第3.4.004条から第3.4.007条による
大陸選手権大会・大陸競技大会	- UCI規則第3.8.004条を見よ

<u>Class 1</u>	- 最少6カ国の参加 - 男子エリートの競技 - ジュニア(男/女)U23(男/女 または 女子の競技(最少3カテゴリ)) - 最少5の種目*
<u>Class 2</u>	- 最少5カ国の参加 - 男子エリートの競技 - ジュニア(男/女)U23(男/女 または 女子の競技(最少2カテゴリ)) - 最少3の種目*
<u>Class 3</u>	- 最少4カ国の参加 - 男子エリートの競技 - ジュニア(男/女)U23(男/女 または 女子の競技(最少1カテゴリ)) - 最少2の種目*
<u>Class 4</u>	- 最少4カ国の参加

*競技 = エリート世界選手権大会プログラムにおけるカテゴリーごとの種目

付表3:ペナルティ表

3. 衣服		
3.1 必須でないものを着用する(8条)	スタートは拒絶される	スタートは拒絶される
3.2 義務づけられたヘルメットなしにスタートしようとする		
3.2.1 タイム・トライアルを除くクラス4以上のエリート男子ロード・レース	200 加えてUCI個人ランキングから50点減算	
3.2.2 タイム・トライアルを含むその他のロード・レース	スタートは拒絶される	スタートは拒絶される
3.3 義務づけられたヘルメットを競技中に外す		
3.3.1 タイム・トライアルを除くクラス4以上のエリート男子ロード・レース	200 加えてUCI個人ランキングから50点減算	
3.3.2 タイム・トライアルを含むその他のロード・レース	失格 および100	失格 および100

付表5-1:自転車競技場および施設に関する基準要項

12. 電源・配線設備
- インフィールドを含む競技場内の必要箇所に電源を設置する(別記参考)
- フィンリッシュ・ライン付近の競走路下に 通信用配線等を追加設置するための内径15' 以上の配線管を敷設する。
- (1) 競走路外側の計時装置等の操作位置より 競走路・補助走路の下を 通ってインフィールドに達する" 主配線管 "1本。
- (2) 競走路と補助走路の間の周回板装置 計時用センサ等から 補助走路の下を 通ってインフィールドに達する" 配線管 "をホーム側とバック側に1本ずつ計2本。
- (3) 上記の配線管の電線取り出し部分は競技時・練習時にも安全を確保するための適切な蓋等を備えること。

付表7:サイクル・サッカーの合図

- 図1 ゴール(写真省略)
- 図2 アドバンテージ(写真省略)
- 図3 距離(写真省略)
- 図4 試合開始(写真省略)
- 図5 無効得点(写真省略)
- 図6 タイムアウト(写真省略)

日本自転車競技連盟ランキング制度

3. ポイントを付与する競技
- (1) 競技者にポイントを付与する競技は以下の競技とする

- ①トラック・レース【2004年は適用休止】
 - ②ロード・レース【2004年は適用休止】
 - ③シクロ・クロス
 - ④マウンテンバイク(MTB)
- (2) チームにポイントを付与する競技は以下とする。
- ①ロード・レース【2004年は適用休止】
 - ②マウンテンバイク(MTB)・クロスカンントリー【2004年は適用休止】
5. トラック・レースにおけるポイントの付与【2004年は適用休止】
6. ロード・レース【2004年は適用休止】
9. チーム・ポイントの算出
- チーム・ポイントは種別により下記の方法で算出する。
- (1) ロード・レース【2004年は適用休止】
 - (2) マウンテンバイク【2004年は適用休止】
10. チーム・ポイントの集計と公表【2004年は適用休止】

日本自転車競技連盟トラック・タイム・ランキング制度

- 1 目的
- 財団法人日本自転車競技連盟(以下「本連盟」)登録競技者の競技力の向上に寄与するためタイムランキング制度を制定する。
- 2 対象競技者
- 本連盟の登録競技者
- 3 対象大会
- 本連盟競技規則第24章第100条および第102条に規定する「記録即時認定競技大会」とする(ただし同第102条に規定する国際自転車競技連合に定める競技大会等については本連盟派遣選手のみを対象とする。)
- 4 対象種目および区分

		男子		女子	
		19歳以上	19歳未満	19歳以上	19歳未満
フライング・スタート	200m	—	—	—	—
スタンディング・スタート	500m	-	-	—	—
	1km	—	—	-	-
	2km	-	-	-	—
	3km	-	—	—	-
	4km	—	-	-	-

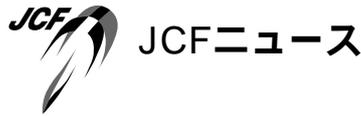
- 5 発表方法
- 当該暦年中に達する年齢により上記3の対象種目及び区分毎に暦年制で集計し翌年2月に上位20名を発表するものとする。
- 付則
- 制定 平成16年(2004年)4月1日

公認審判員規程

- 第14条 3. 本連盟の公認審判員は次の各号に基き 資格を付与する。
- ④国際自転車競技連合(UCI)ライセンス受験推せん資格は第1級公認審判員または第2級公認審判員の中で第1級公認審判員受講資格を有する者を 競技運営委員会の審査を経て認める。
- 第15条 3. 名誉審判員の資格
- ①本連盟公認審判員として 通算20年以上経過した者で加盟団体の推薦のある者。
- ②【削除】
- 第16条 競技会の審判は公認審判員をもって組織しその構成基準については別に定める。

チーム登録規定

【2004年は適用休止】



ヘルメットの新規公認

公認番号	公認日付	公認申請社	製造社	形式名	公認条件
222	2003/8/11	ダイワ精工(株)	スペシャライズド	S1	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
190	2003/10/30	(株)スコットレーディング	キャットライク	コンパクト	
223	2004/1/23	オージーケー販売(株)	オージーケー技研(株)	W-3	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
224	2004/1/23	オージーケー販売(株)	オージーケー技研(株)	W-5	
214	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	ユー・コン	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
215	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	アキュラ	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
216	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	インフラックス	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
217	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	エックスレイ	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
218	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	ジツサロ	
219	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	ARC	
220	2004/4/1	(株)インターテック	BELL	フリオ	
226	2004/4/1	(有)アキコーポレーション	LOUIS GARNEAU Inc.	AKI	
158	2004/4/1	インターマックス	MET SPA	アナクサゴレ	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
167	2004/4/1	インターマックス	MET SPA	ストラディバリウス	
183	2004/4/1	インターマックス	MET SPA	イボグリフォ	
194	2004/4/1	インターマックス	MET SPA	5th-エレメント	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
193	2004/4/1	東京サンエス(株)	LAS	KRIPTON	
202	2004/4/1	東京サンエス(株)	LAS	ASTROM	
203	2004/4/1	東京サンエス(株)	LAS	HAXIAL	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスに おいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
225	2004/4/1	(株)タキザワ	Strategic Sports	バンサー	

スペシャライズド	〒203-0032	東京都東久留米市前沢3-14-16 A棟3F	0424-79-7774
CATLIKE(キャットライク)	〒180-0001	東京都武蔵野市吉祥寺北町1-1-18 吉祥寺オマタビル	0422-23-7001
オージーケー技研(株)	〒577-0016	大阪府東大阪市長田西6-3-4	06-6747-8031
(株)インターテック	〒168-0065	東京都杉並区浜田山4-10-3	03-5377-1443
(有)アキコーポレーション	〒535-0021	大阪府大阪市旭区清水4-1-6 イタヤビル501	06-6951-8567
インターマックス	〒400-0074	山梨県甲府市千塚5-10-9	055-252-7333
東京サンエス(株)	〒110-0005	東京都台東区上野3-7-1	03-3834-2041
(株)タキザワ	〒371-0033	群馬県前橋市国領町2-2-18	027-231-5619



2004年アンチドーピング検査対象大会の指定とアンチドーピング検査官の指名

UCIアンチドーピング委員会より下記のとおり、アンチドーピング検査対象大会と検査官の指名がありました。

リスト	種目	日程	大会名	クラス	検査官
A	ロード・トラック	4/9～4/16	アジア選手権大会	CC	Amarjit SINGH GILL
A	ロード	5/23～5/30	ツアー・オブ・ジャパン	2.5	齋藤晃一郎
B	ロード	9/15～9/20	ツール・ド・北海道	2.5	-

Aリストの大会とは、UCIアンチドーピング委員会がアンチドーピング検査官を指名する大会をいい、Bリストの大会とは、レース主催者の国内連盟がアンチドーピング検査官を指名する大会のことです。

2004年UCI国際コミセールの指名

UCIより下記大会についてのコミセールの指名がありました。

日程	大会名	クラス	開催国	氏名	職名
4/9～4/16	アジア自転車競技選手権大会	CC	JPN	William, CLINCH (AUS)	チーフ・コミセール
5/14～5/16	UCIトラック・ワールドカップ第4戦	CDM	AUS	松倉 信裕	パネル・メンバー
5/23～5/30	ツアー・オブ・ジャパン	2.5	JPN	Frederick C., CHAN (HKG)	チーフ・コミセール
5/23～5/30	アゼルバイジャン・ツアー	2.5	IRI	菊池津根徳	チーフ・コミセール
5/26～5/30	トラック世界選手権大会	CM	AUS	横田 恭	スタータ
6/12～6/18	ツール・ド・コリア	2.5	KOR	坂本 陽一	インスペクタ
7/17～7/25	ツアー・オブ・チンハイレイク	2.3	CHN	齋藤晃一郎	インスペクタ
7/28～8/1	トラック・ジュニア世界選手権大会	CM	USA	林 辰夫	パネル・メンバー
8/20～8/25	オリンピック競技大会	HC	GRE	松倉 信裕	パネル・メンバー
9/15～9/20	ツール・ド・北海道	2.5	JPN	Walter Ka Lok, YUE (HKG)	チーフ・コミセール
10/24	ジャパン・カップ	1.3	JPN	Ibrahim, OMAR (MAS)	チーフ・コミセール
11/1～11/6	パワーネット・ツアー・オブ・サウスランド	2.5	NZL	榎 正人	チーフ・コミセール
11/14	ツール・ド・おきなわ	1.5	JPN	Husein, ARGASASMITA (INA)	チーフ・コミセール

JCFトラックナショナルチーム強化合宿

3月2日から5日まで、静岡県の伊東温泉競輪場及び日本競輪学校において、JCFトラックナショナルチームの強化合宿が行われた。

参加選手は伏見、金子、長塚、井上、矢口、大菅の短距離班、飯島 誠、飯島規之の中距離班の合計8名。

また、アテネオリンピックにそなえ競技外アンチドーピング検査も行われるなど、スタッフも万全の態勢で臨み、アテネオリンピックへの意気込みが感じられた。



大菅小百合



SHIMANO

*The 100th Anniversary Tour de France
Lance Armstrong
United States Postal Service Team, USA
Wins Fifth Consecutive
Riding New DURA-ACE*

DURA-ACE

www.shimano.com

平成15年度全国自転車競技指導者研修会

本連盟主催の有資格指導者対象の研修会が2月28日(土)に日本自転車会館で開催された。講義内容は本連盟常務理事の岡田行雄氏による「2004競技規則及び指導者として必要なこと」及び国立科学スポーツセンター研究員であり本連盟医科学部会管理栄養士の小清水孝子氏による「実践自転車競技者のための食事ガイド」であった。



「2004年アジア自転車競技選手権大会」を観戦しよう!

2004年4月9日(金)から16日(金)まで、三重県四日市市で「第24回アジア自転車競技選手権大会・第11回ジュニア・アジア自転車競技選手権大会」が開催されます。

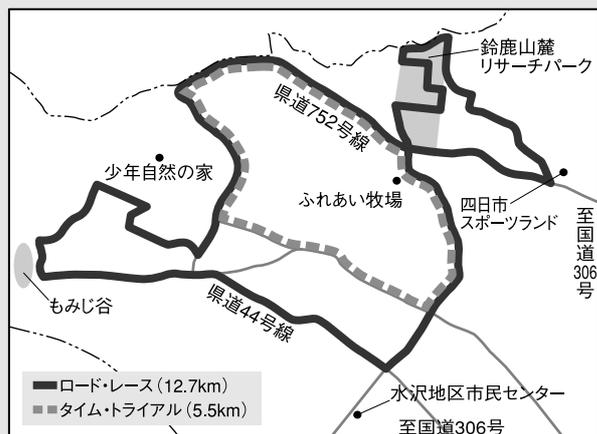
各会場へのアクセスは下図の通りです。お誘い合わせの上ご来場下さい。

[ロード・レース]

個人タイムトライアル: 2004年4月9日(金)

個人ロードレース: 2004年4月10日(土)~11日(日)

三重県四日市市水沢・桜地区周回コース

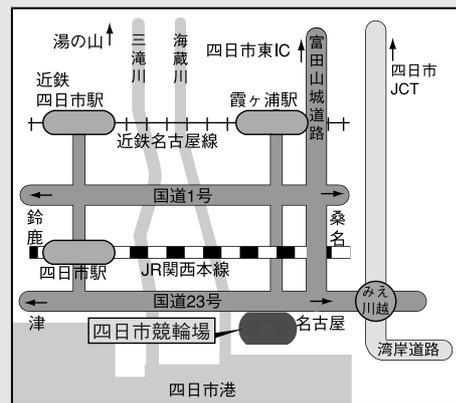


ロードレース開催当日は、午前9時から午後4時までコースとなる道路には車で入れません。観戦は整理員の指示に従って、レースの支障とならない場所でご覧いただくことになります。

[トラック・レース]

2004年4月13日(火)~16日(金)

三重県・四日市競輪場



東名阪自動車道を御利用の場合は、四日市東ICが最寄りの出口になります。料金所を出て最初の信号を右折、富田山城道路を国道1号線・23号線方面に向かいます。

国道1号線との交差点を直進、通過後すぐに国道23号線との交差点(立体交差)ですので、これを右折してしばらく進みますと、国道23号線沿い(進行方向の左側)に四日市競輪場があります。

隣接の無料駐車場には、約3,000台が駐車可能です。

インフォメーションコーナー

自転車日本代表サポーター募集

いよいよ間近に迫ったアテネオリンピック。自転車のナショナルチームもアテネへ向けて頑張っています。そこで、自転車日本代表選手を応援するサポーターを募集します。

現在、「アテネツアー」プレゼントキャンペーンを実施中です。

あなたが選んだ男子トラック短距離種目選手のオリンピック出場が決定すると、抽選でアテネにご招待! 代表候補選手は現在8名、あなたはどの選手を応援しますか? もちろん応募は無料です!!

Tシャツや携帯ストラップなどのサポーター公式グッズが必ずもらえる他、日本代表選手との交流も楽しめるロイヤルサポーターも入会受付中!!

盛りだくさんの企画と画像満載のホームページ www.go-c-japan.com を要チェック!!

「輪道」RINDO

ロードレースを題材とした漫画「輪道RINDO」が週刊少年チャンピオン(秋田書店)に好評連載中。

2004年度レース・カレンダーの変更

	期 日	大 会 名	場 所
トラックレース	5月04日	第23回西日本学生選手権自転車競技大会	兵庫・明石公園
	5月09日	第44回東日本学生選手権自転車競技大会	東京・立川
	7月24日～25日	第45回全日本学生選手権自転車競技大会	山梨・境川
	8月26日～28日	第60回全日本大学対抗選手権自転車競技大会(インカレ)	滋賀・大津びわこ
	9月23日	第40回全日本学生自転車競技新人戦西日本大会	関西地区
	9月23日	第40回全日本学生自転車競技新人戦東日本大会	関東地区
ロードレース	6月12日	第43回全日本学生選手権チームロードレース大会	秋田・大湯村ソーラースポーツライン
	6月13日	2004年全日本学生個人ロードタイムトライアル	秋田・大湯村ソーラースポーツライン
シクロクロス	12月12日	第10回全日本シクロクロス選手権大会	富山・砺波

広報委員会からのお知らせ

広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内

平成14年度より「シクリスムエコー」個別郵送ご希望の方には郵送手数料の一部をご負担いただいております。平成16年度につきましてもご負担をお願いすることになりました。皆様のご理解をお願い申し上げます。なお16年度の発行回数は10回を予定しております。また、勝手ながら年度途中でのお申し込みにつきましても4月号からの1年分とさせていただきます。

平成16年度 1,200円(1年分)

同封の郵便振替用紙(振込手数料JCF負担)で、お近くの郵便局よりお申し込みください。各加盟団体(都道府県車連)事務局や一部自転車関連施設にもこれまで通り送付いたしますので、ご来訪できる方はご利用ください。また、これまで通り、JCFホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。< <http://www.jcf.or.jp> > なお、JCF維持会員(個人1万円・法人5万円/年間)の皆様へは無料でお送りいたします。

2004年JCF競技規則集 完成!

(財)日本自転車競技連盟2004年度版の競技規則集が発行されました。

ご購入希望のお問い合わせは、各加盟団体へお問い合わせください。

なお、主なルールの改訂事項につきましては、JCFホームページ(<http://www.jcf.or.jp>)でご覧いただけます。

連盟の動き(3月上旬～3月中旬)

- 3月 2日 トラックナショナルチーム強化合宿 於：静岡・伊東競輪場(～5日)
 5日 第4回総務委員会
 8日 UCIトラックワールドカップ第2戦選手団出発 於：メキシコ・アグアカリエンテス(帰国 17日)
 11日 第8回常務理事会
 15日 アンチドーピング作業部会
 18日 第3回広報委員会・広報部会
 (財)日本オリンピック委員会評議委員会 於：東京・岸記念体育会館
 19日 第4回理事会

4月の主な予定

- 4月 1日 アジア選手権トラック強化合宿 於：三重・四日市市(～5日)
 8日 ACC理事会・ACC総会 於：三重・四日市市



シクリスムエコー No.106 2004年3月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩橋昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー



森永製菓株式会社健康事業部



株式会社サテライトジャパン